

リケンテクノス株式会社

2024年3月期 第2四半期
決算・経営概況説明会

2023年11月15日



RIKEN TECHNOS



目次

1.決算概要

2.セグメント別概況

3.中長期的取り組み



1.決算概要

1.決算概要

2.セグメント別概況

3.中長期的取り組み

2024年3月期上期 連結業績サマリー

| 1.決算概要



(単位：百万円)

	2023年3月期 上期実績	2024年3月期 上期実績	前年同期比	増減率	2024年3月期 上期業績予想
売上高	59,527	61,397	1,870	3.1%	61,000
売上総利益	9,870	10,076	206	2.1%	-
営業利益	3,498	3,621	123	3.5%	2,900
経常利益	4,040	4,202	162	4.0%	3,000
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,377	2,507	130	5.4%	1,700
1株当たり四半期純利益(円)	37.64	39.62	1.98	5.3%	26.87
ROS(%)	5.9	5.9	0.0	-	4.8

2024年3月期上期のナフサ価格：65,550円/KL、平均為替レート：135.99円/USD

- 原材料価格上昇分の製品価格への転嫁による売上増加及び円安の影響もあり増収・増益
- 売上高は**過去最高**、各段階利益も**過去最高益**

セグメント別売上高推移

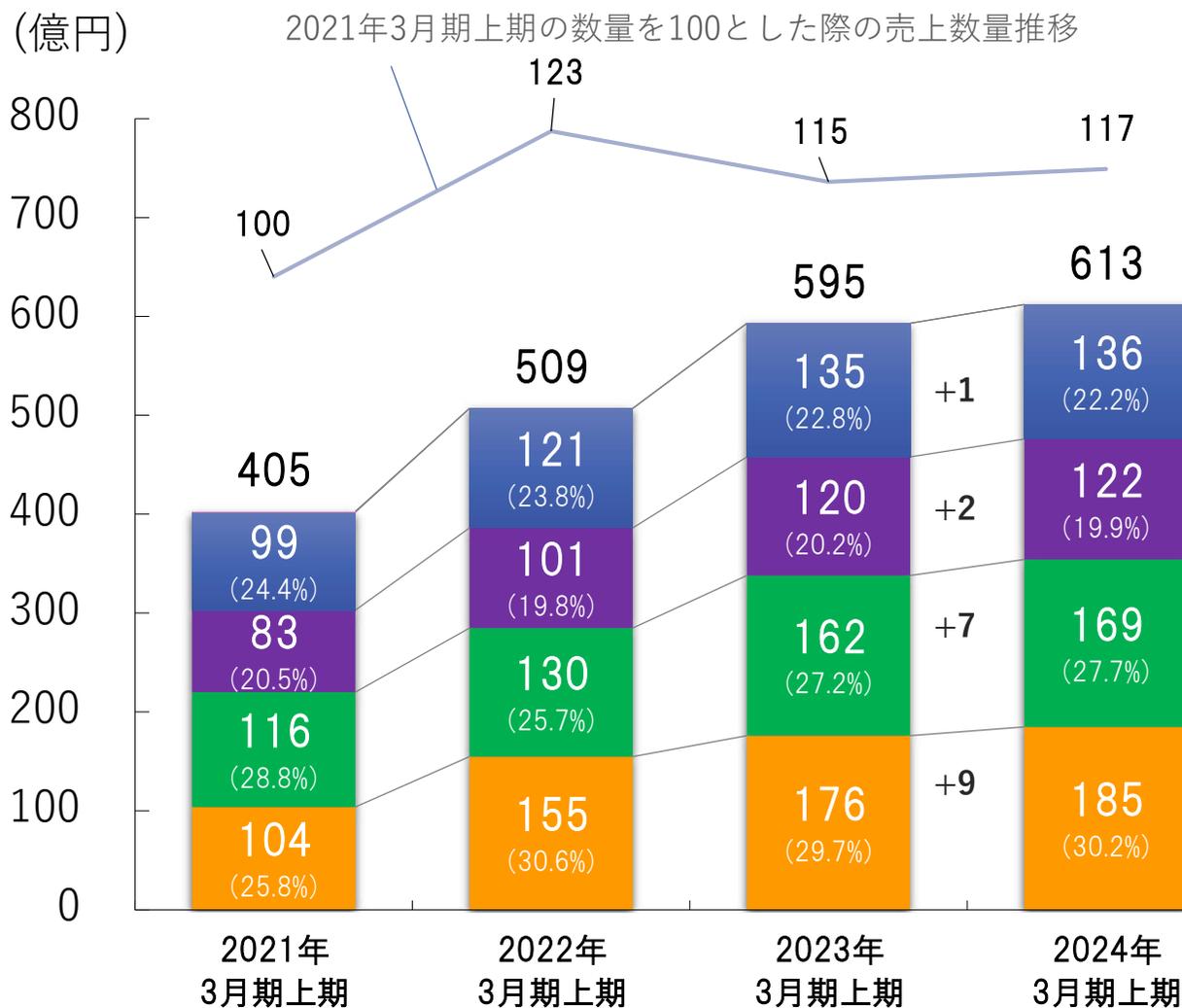
| 1.決算概要



2024年3月期上期 売上高

613億円

前年同期比 18億円増 (3.1%増)



地域別売上高推移

| 1.決算概要

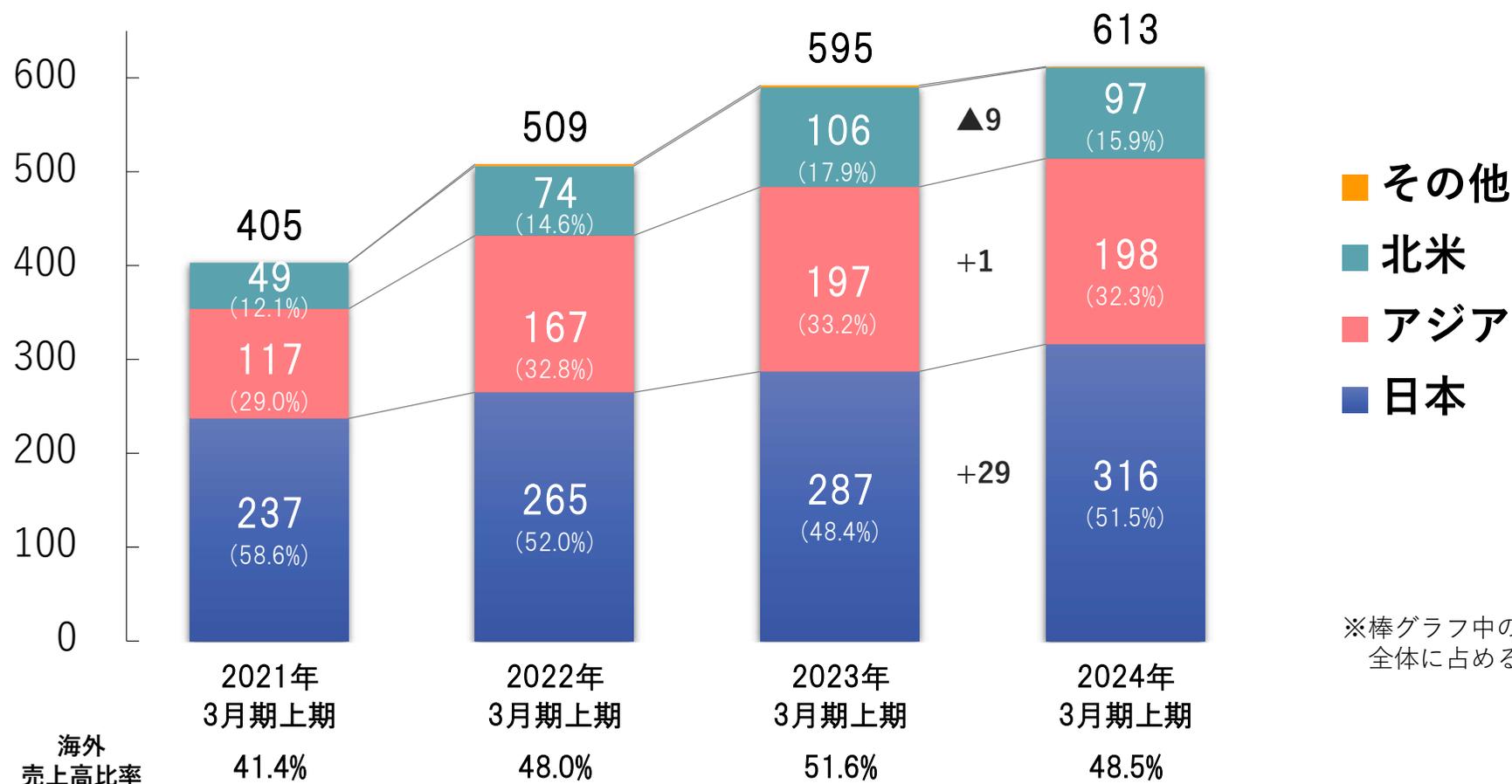


2024年3月期上期 売上高

613億円

前年同期比 18億円増 (3.1%増)

(億円)



※棒グラフ中のカッコ内%表示は全体に占める各地域の割合

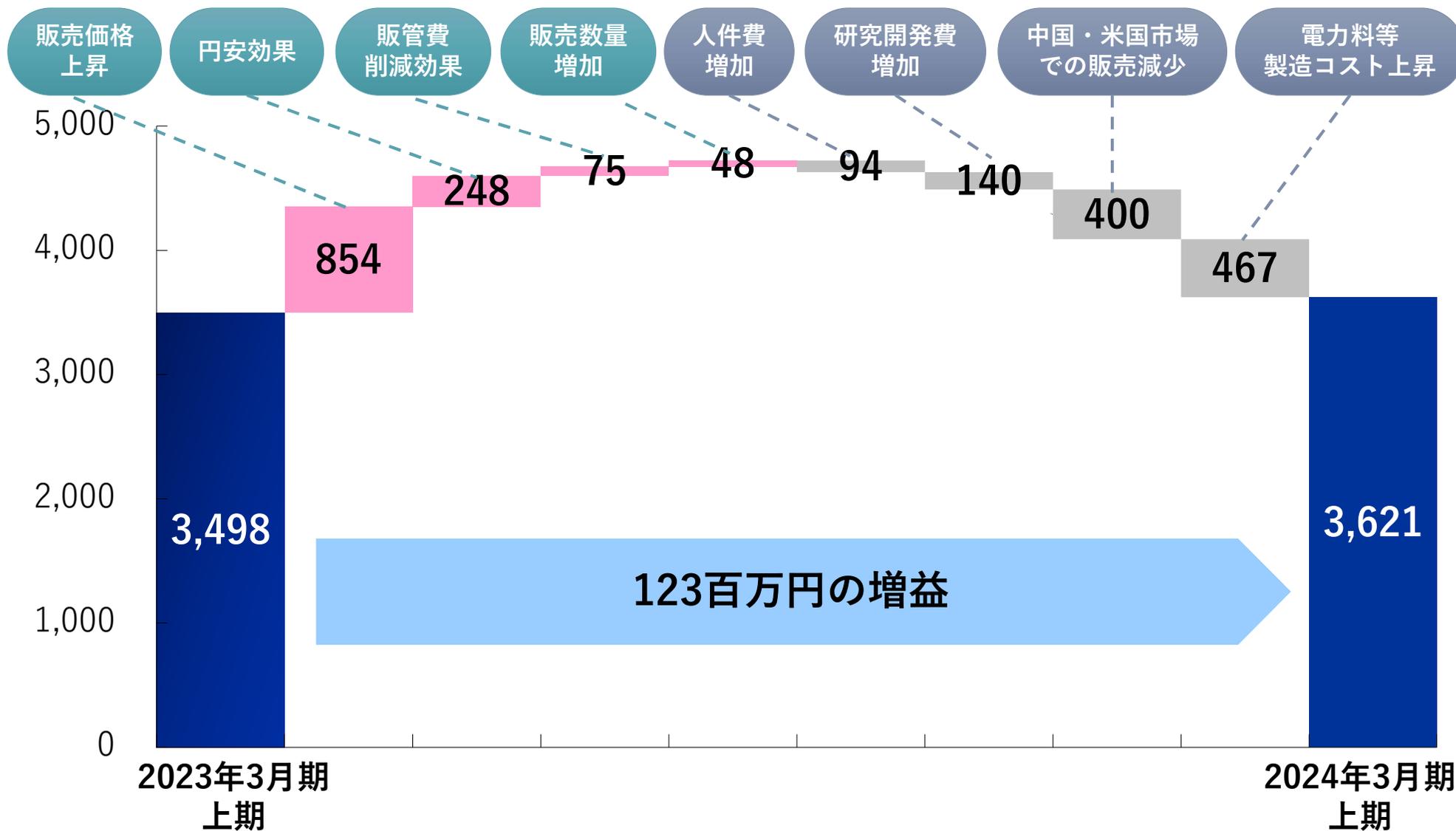
➤ 国内売上高増加により海外売上高比率は48.5%

営業利益 前期比増減要因分析

1. 決算概要



(単位：百万円)

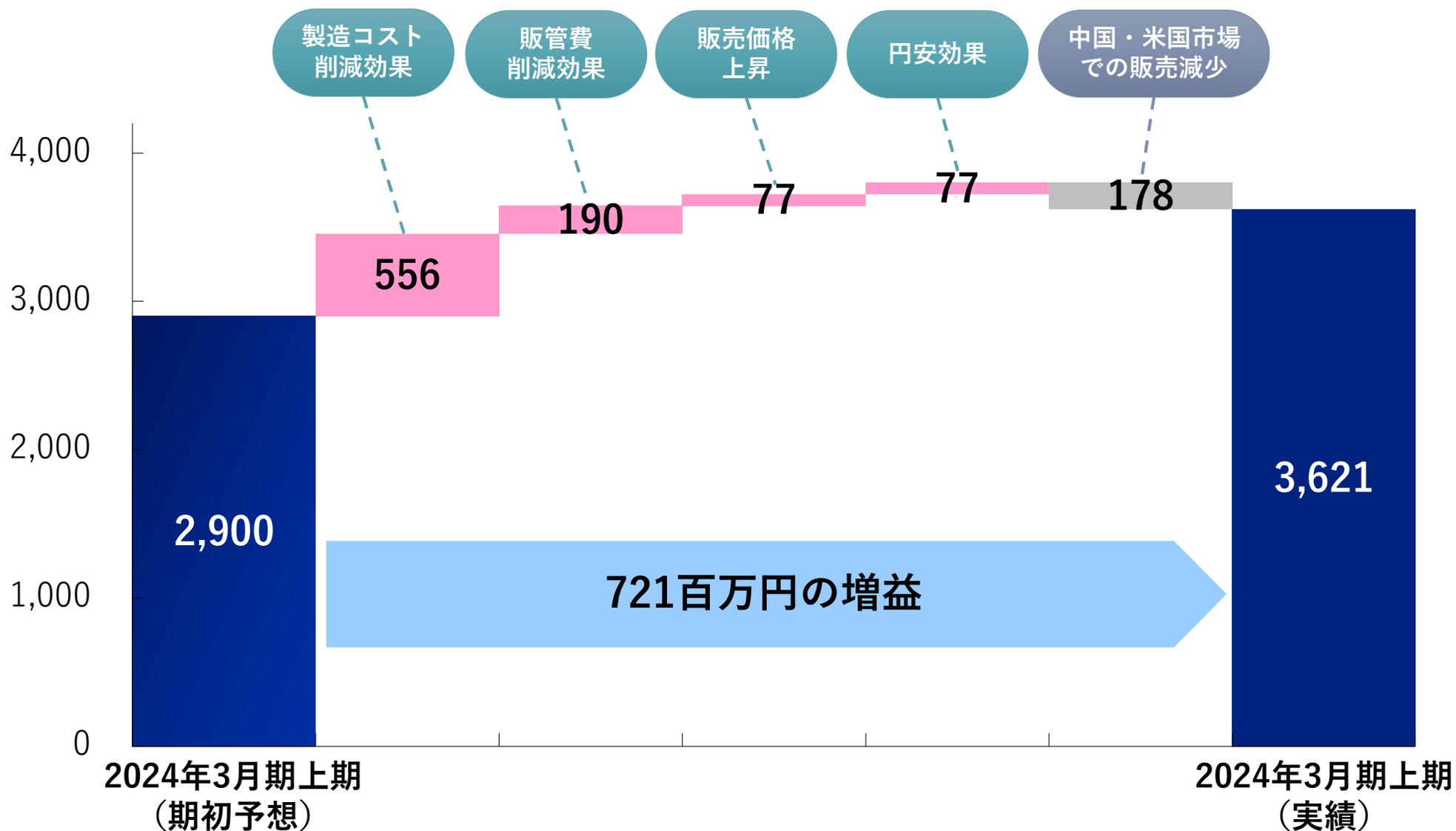


営業利益 予想比増減要因分析

| 1.決算概要



(単位：百万円)



連結貸借対照表

1. 決算概要



RIKEN TECHNOS
(単位：百万円)

	2023年 3月末	2023年 9月末	増減		2023年 3月末	2023年 9月末	増減
流動資産	71,667	73,767	2,100	負債	39,837	40,816	979
現金及び預金	23,481	22,497	▲984	流動負債	33,876	34,437	561
売上債権	28,495	30,928	2,433	固定負債	5,961	6,378	417
棚卸資産	18,734	19,395	661	純資産	72,165	76,419	4,254
その他	956	946	▲10	資本金	8,514	8,514	-
固定資産	40,334	43,469	3,135	資本剰余金	6,597	6,597	-
有形固定資産	27,077	28,833	1,756	利益剰余金	41,463	42,931	1,468
無形固定資産	2,286	2,314	28	その他	6,621	8,911	2,290
投資その他の資産	10,970	12,321	1,351	非支配株主持分	8,969	9,465	496
資産合計	112,002	117,236	5,234	負債純資産合計	112,002	117,236	5,234

- 現預金を原資として配当金を増額
- 原料価格高騰の影響により売上債権、棚卸資産、仕入債務等が増加
- 有利子負債は10,883百万円

連結キャッシュ・フロー計算書

| 1.決算概要



RIKEN TECHNOS

(単位：百万円)

	2023年3月期 上期	2024年3月期 上期	増減
a.営業活動によるキャッシュ・フロー	4,491	3,099	▲1,392
b.投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,685	▲2,435	▲750
有形固定資産の取得	▲1,663	▲2,372	▲709
無形固定資産の取得	▲83	▲105	▲22
その他	60	42	▲18
c.フリー・キャッシュ・フロー (a+b)	2,805	663	▲2,142
d.財務活動によるキャッシュ・フロー	▲712	▲2,114	▲1,402
e.その他	780	465	▲315
現金及び現金同等物の増減額 (c+d+e)	2,873	▲984	▲3,857
現金及び現金同等物の四半期末残高	23,551	22,470	▲1,081

➤ 設備投資額及び配当金総額を増額

2024年3月期 連結業績予想

| 1.決算概要



(単位：百万円)

	2023年 3月期 実績	2024年 3月期 期初予想	2024年 3月期 修正予想	従来予想比		前期比	
				差額	伸び率	差額	伸び率
売上高	123,497	128,000	128,000	-	0.0%	4,503	3.6%
営業利益	7,506	7,600	8,400	800	10.5%	894	11.9%
経常利益	7,964	7,800	9,000	1,200	15.4%	1,036	13.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,557	4,500	5,200	700	15.6%	643	14.1%
1株当たり当期純利益(円)	72.11	71.14	82.14	11.00	15.5%	10.03	13.9%
ROS(%)	6.1	5.9	6.6	0.7	-	0.5	-
ROE(%)	7.5	7.0	7.9	0.9	-	0.4	-

想定国産ナフサ価格：72,700円/KL、想定為替レート：137.68円/USD

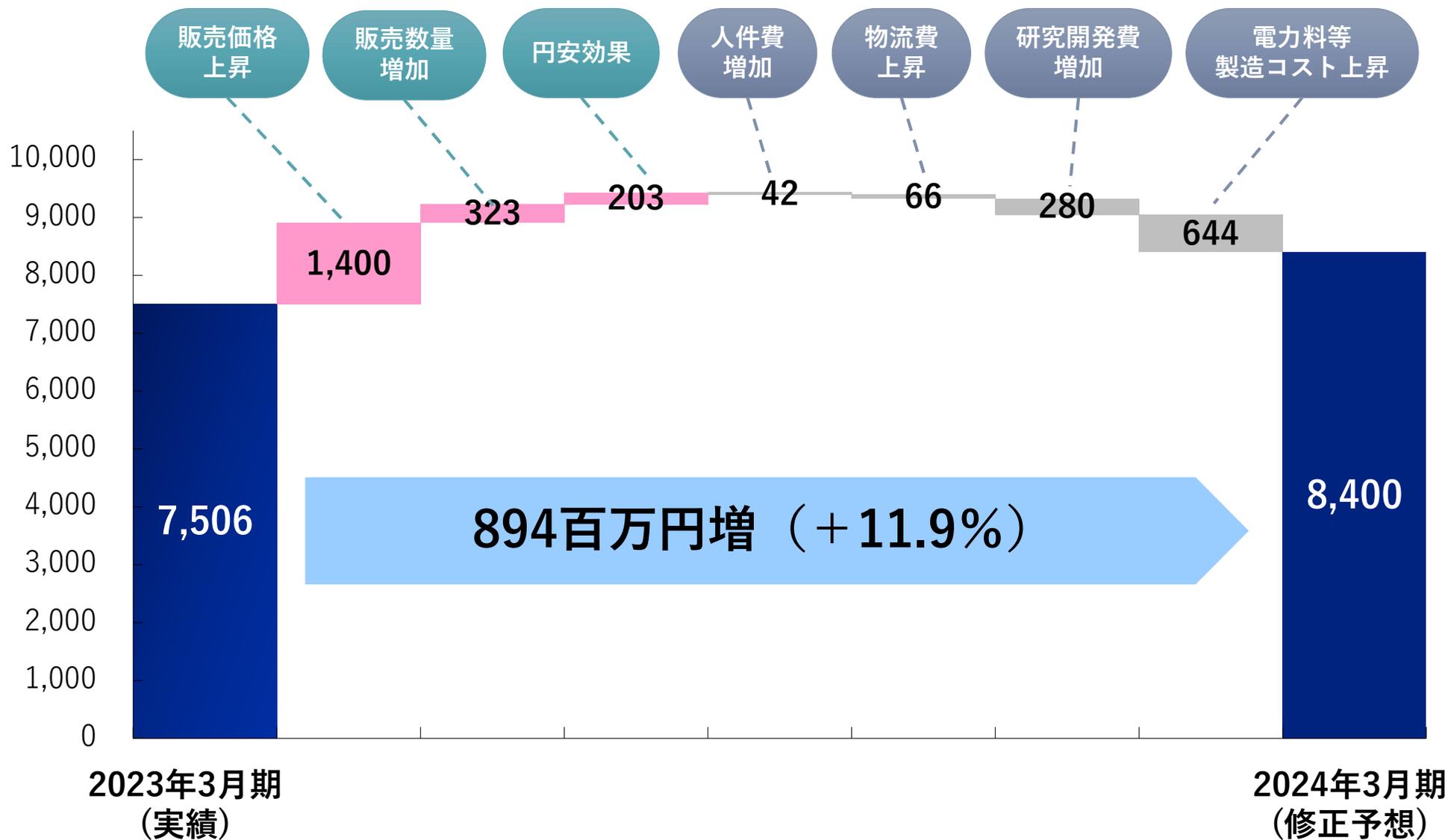
➤各段階利益は当初予想を上回り**過去最高**

2024年3月期(予想)営業利益 増減要因分析 | 1.決算概要



RIKEN TECHNOS

(単位：百万円)





2.セグメント別概況

1.決算概要

2.セグメント別概況

3.中長期的取り組み



Transportation

トランスポーターション



ワイヤーハーネス



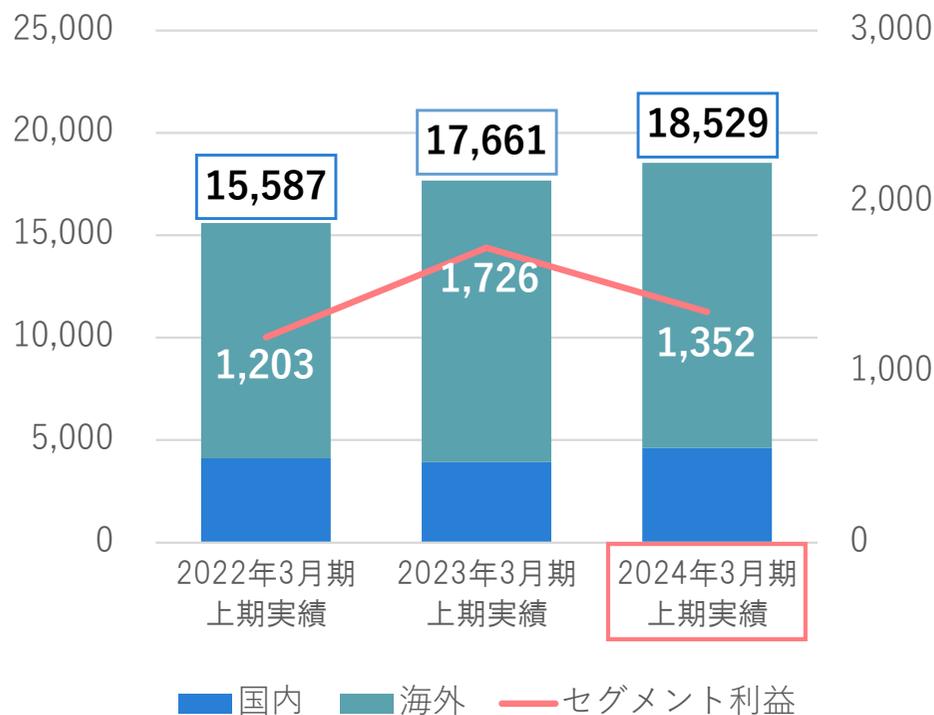
自動車用成形部材



2024年3月期
上期実績

868百万円増収 (+4.9%)
374百万円減益 (△21.7%)

(単位：百万円)

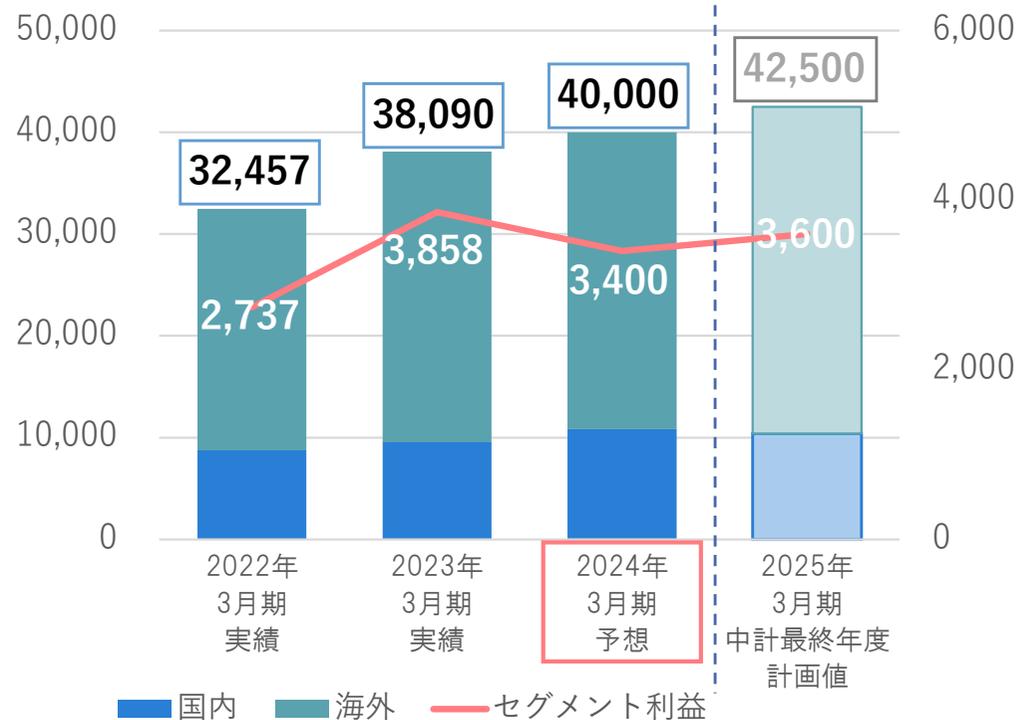


- 国内では、自動車市場が回復し、エラストマーコンパウンドの販売が増加し、増収
- 海外では、中国市場における日系自動車の生産低迷が影響し、減収
- セグメント利益については、中国の日系自動車生産減少に伴う販売の減少、北米のコスト増が影響し、減益

2024年3月期
通期予想

1,910百万円増収 (+5.0%)
458百万円減益 (△11.8%)

(単位：百万円)

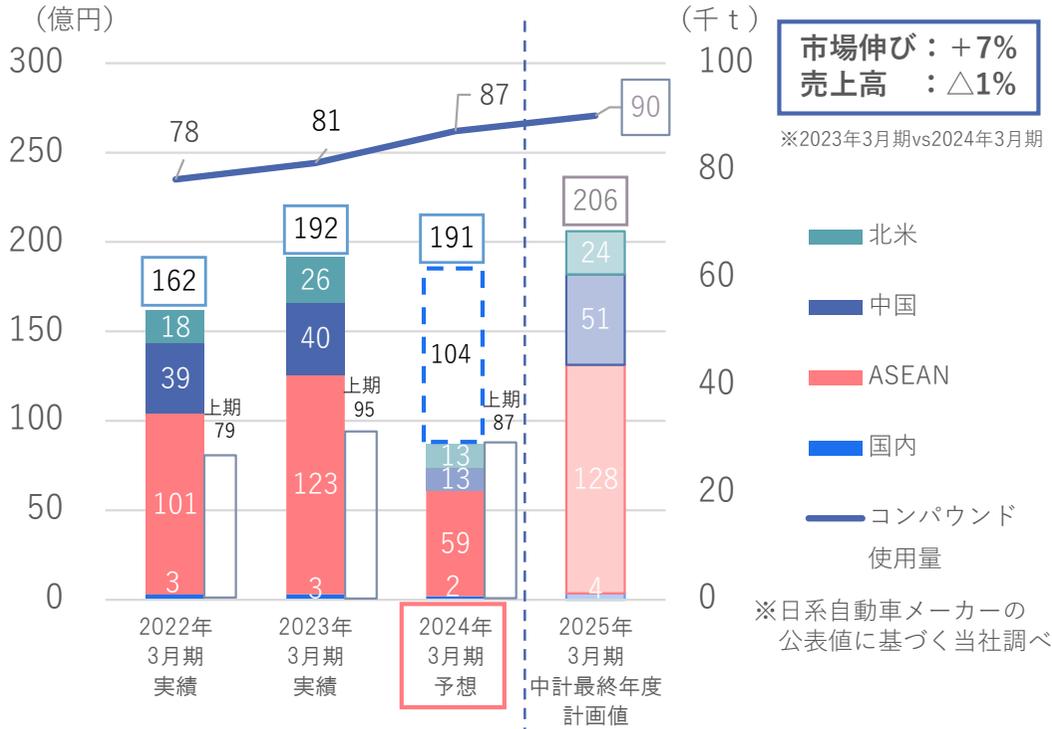


- 国内では、自動車市場が回復し、エラストマーコンパウンドの販売が増加し、増収
- 海外では、上期の中国市場における日系自動車の生産低迷影響があるものの、下期に日系自動車生産が回復し、通期では増収
- セグメント利益については、上期の影響により通期でも減益



重点分野① ワイヤハーネス

日系W/Hメーカーの世界のコンパウンド使用量と当社W/H向けコンパウンド売上高



2024年3月期 上期実績

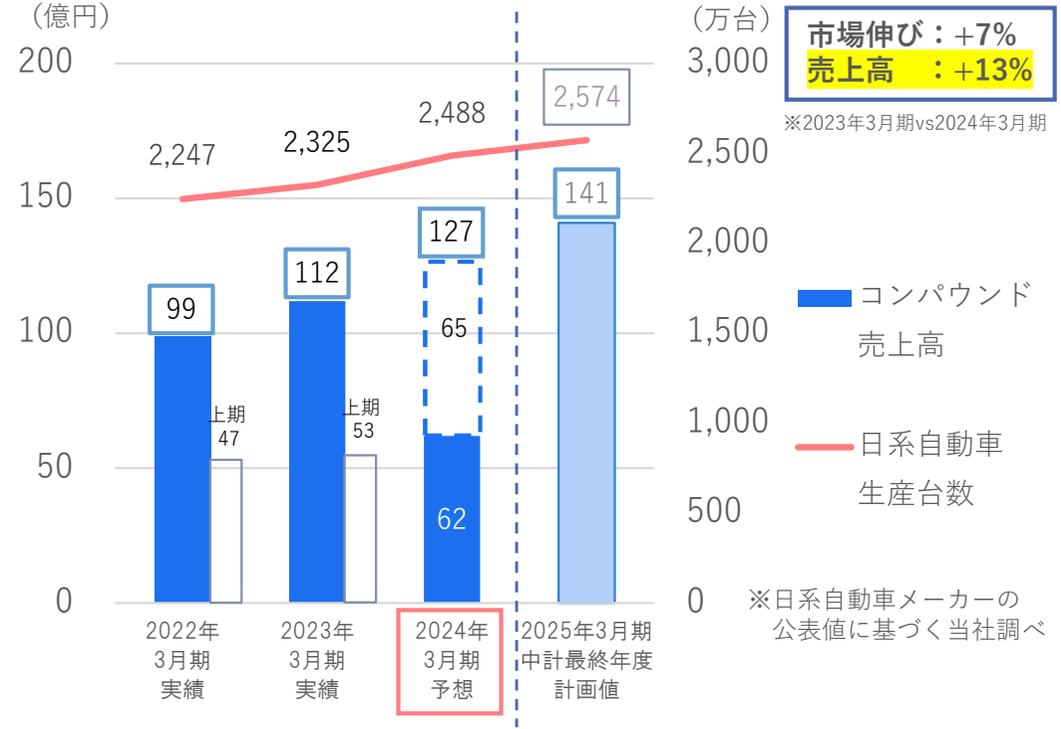
- 原材料価格低下に伴う販売価格の低下により売上高が減少
- 中国、ASEAN域で非日系向けワイヤーハーネス部材の販売開始

2024年3月期 下期施策

- 日系自動車生産の回復に応じて、市場伸長分の確実な取り込み
- 中国、ASEAN域での非日系向けワイヤーハーネス部材の拡販

重点分野② 自動車用成形部材

日系自動車生産台数と自動車用成形部材向けコンパウンド売上高



2024年3月期 上期実績

- 日系大手シール部品メーカー向けに、日本・ASEAN・中国・インド等で販売開始
- 日本国内で顧客に採用された機能部材を世界各地展開
- 機能部材(外装INJ・EV向け部材等)新規案件の客先評価・採用が進捗

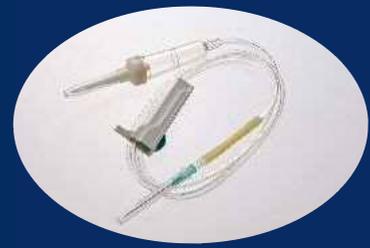
2024年3月期 下期施策

- モール・シール部材の拡販 (日系顧客への採用拡大と海外展開)
- 機能部材の拡販と海外展開、素材転換・ゴム代替の推進



Daily Life & Healthcare

デイリーライフ & ヘルスケア



医療用 (PVC)



ゴム代替

Daily Life & Healthcare

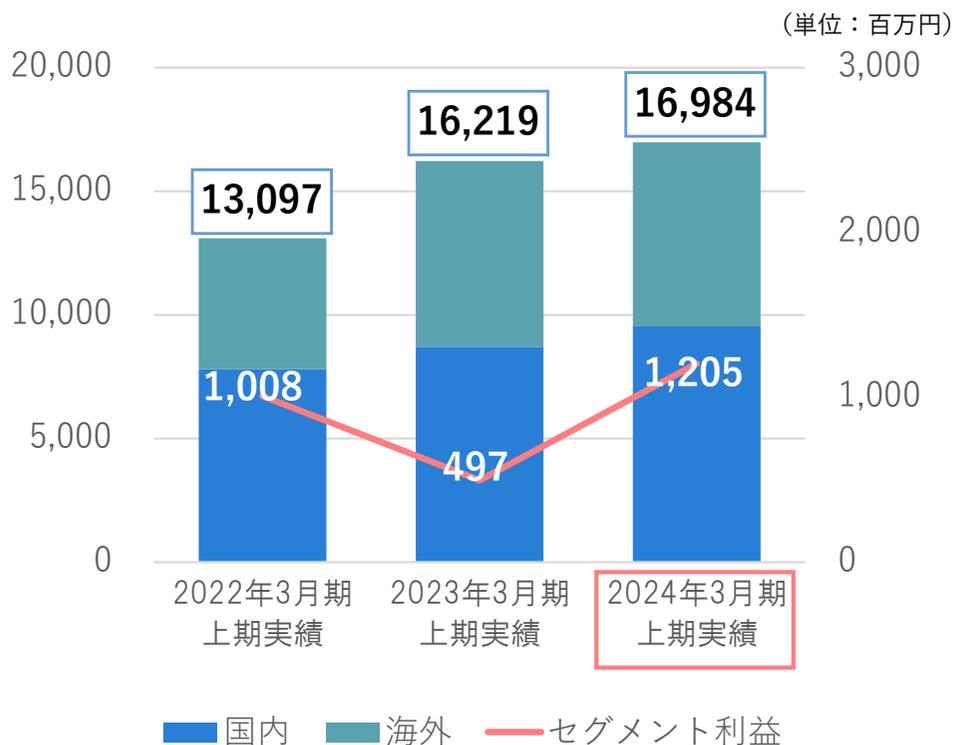


2.セグメント別概況



2024年3月期
上期実績

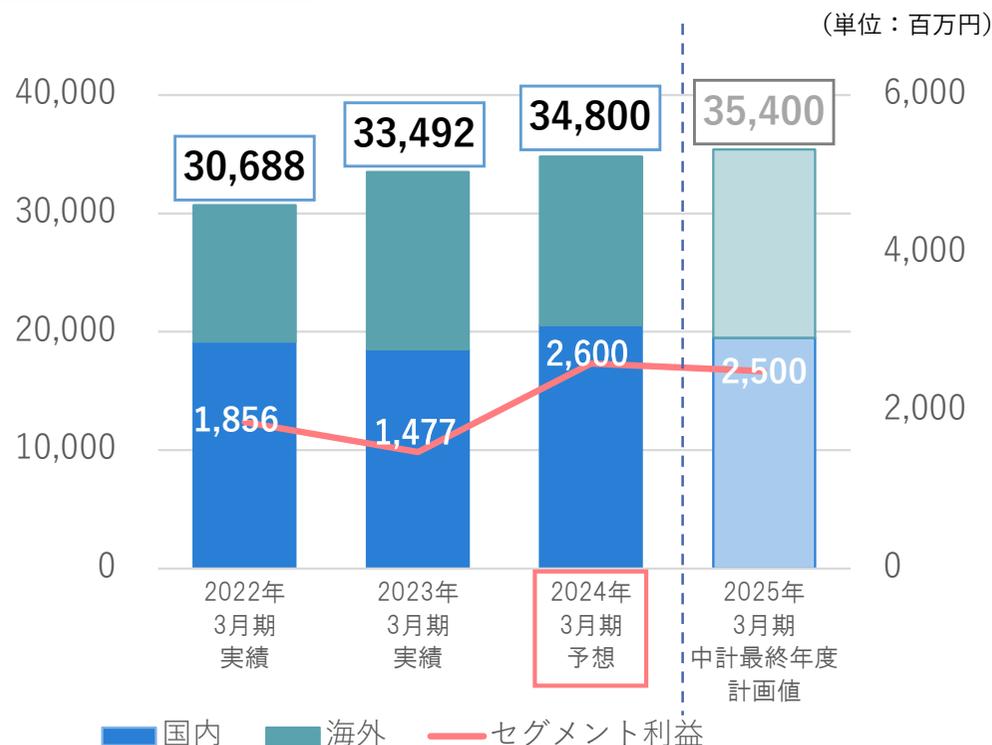
765百万円増収 (+4.7%)
708百万円増益 (+142.6%)



- 国内では、外食市況の回復により食品包材である小巻ラップの販売が増加し、増収
- 海外では、タイ国、米国での生活資材市場向け塩ビコンパウンドの販売が減少し、減収
- セグメント利益は、製品価格の適正化と小巻ラップの販売増加により、増益

2024年3月期
通期予想

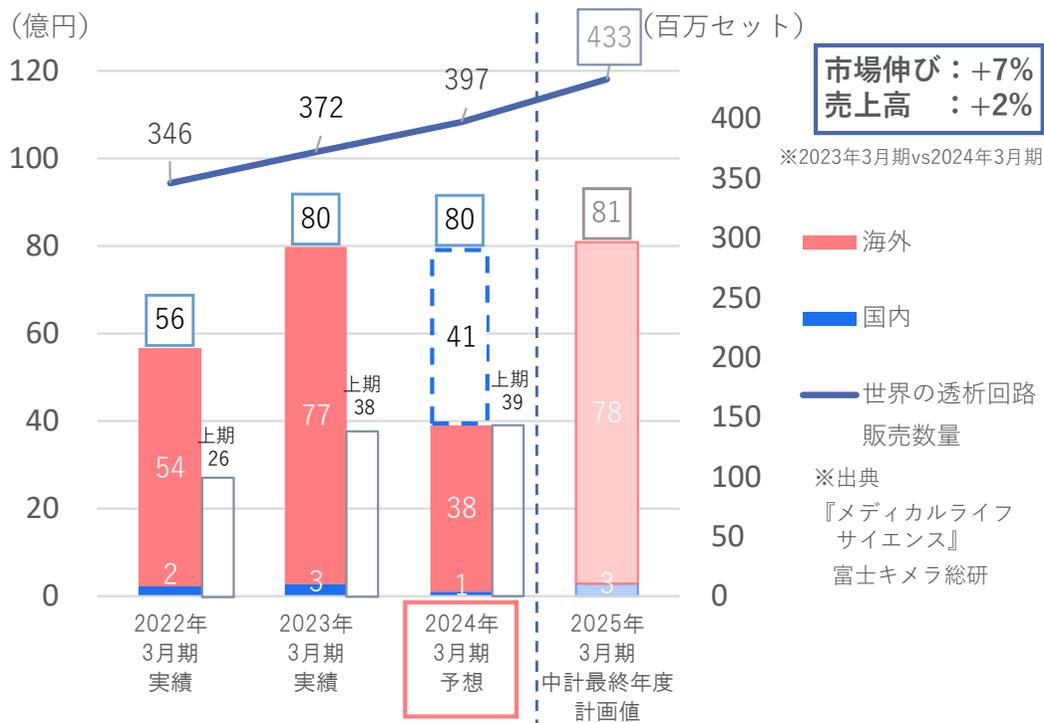
1,308百万円増収 (+3.9%)
1,123百万円増益 (+76.0%)



- 国内では、生活資材市場向けコンパウンドの販売が低迷するものの、食品包材市場向けの販売が増加し、増収
- 海外では、タイ国での生活資材用コンパウンドの販売低迷により、減収
- セグメント利益は、製品価格の適正化と食品包材の外食市場向けの販売増により、増益

重点分野① 医療用(PVC)

透析回路の販売数量と当社医療用PVCコンパウンド売上高



2024年3月期 上期実績

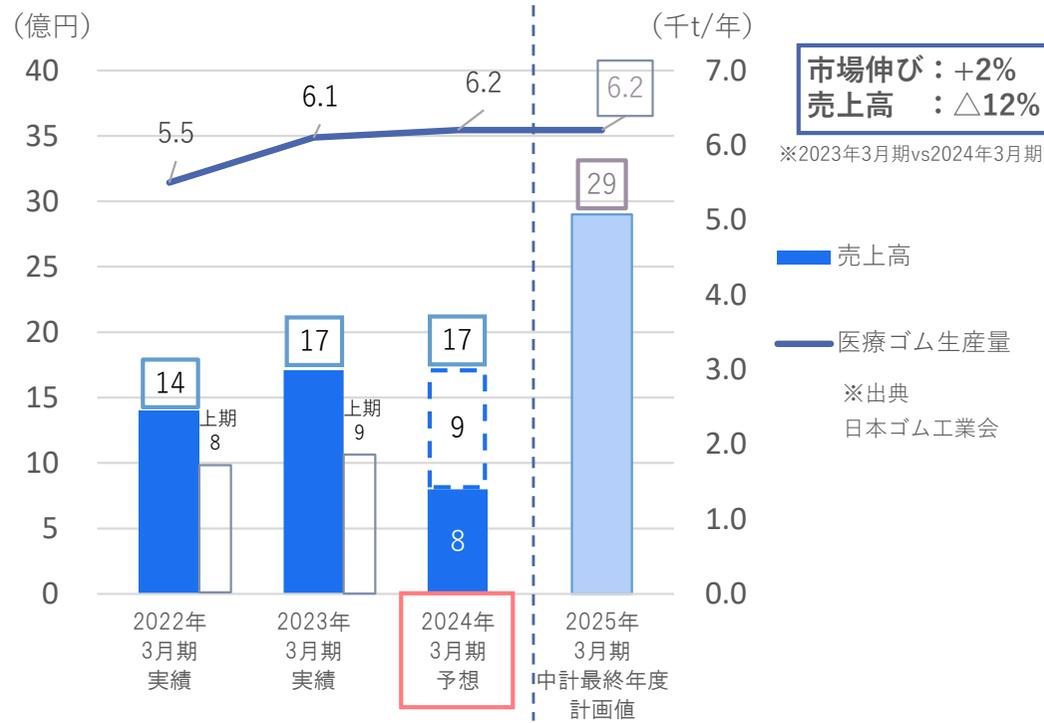
- ASEANでの医療用塩ビコンパウンドの販売増加により、増収

2024年3月期 下期施策

- 原料価格低下に伴う販売価格の低下はあるものの、日系顧客向け拡販により、売上高維持
- 非日系顧客の新規開拓と拡販に向けたマーケティング活動実施

重点分野② ゴム代替

国内医療ゴム生産量と当社ゴム代替コンパウンド売上高



2024年3月期 上期実績

- 医療、生活・産業資材用エラストマーコンパウンドの販売が減少し、減収

2024年3月期 下期施策

- 国内では、医療、生活・産業資材用エラストマーコンパウンドの拡販
- 海外では、生活資材市場向けエラストマーの新規開拓に向けたマーケティング活動を継続

Electronics

エレクトロニクス



電力・産業電線



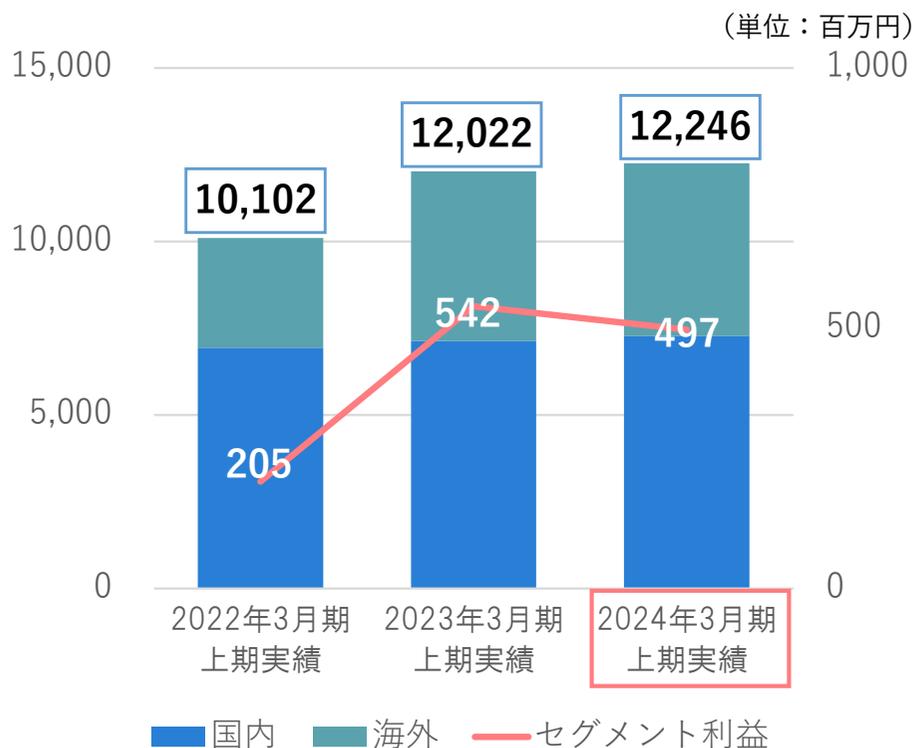
情報通信



光学フィルム

2024年3月期
上期実績

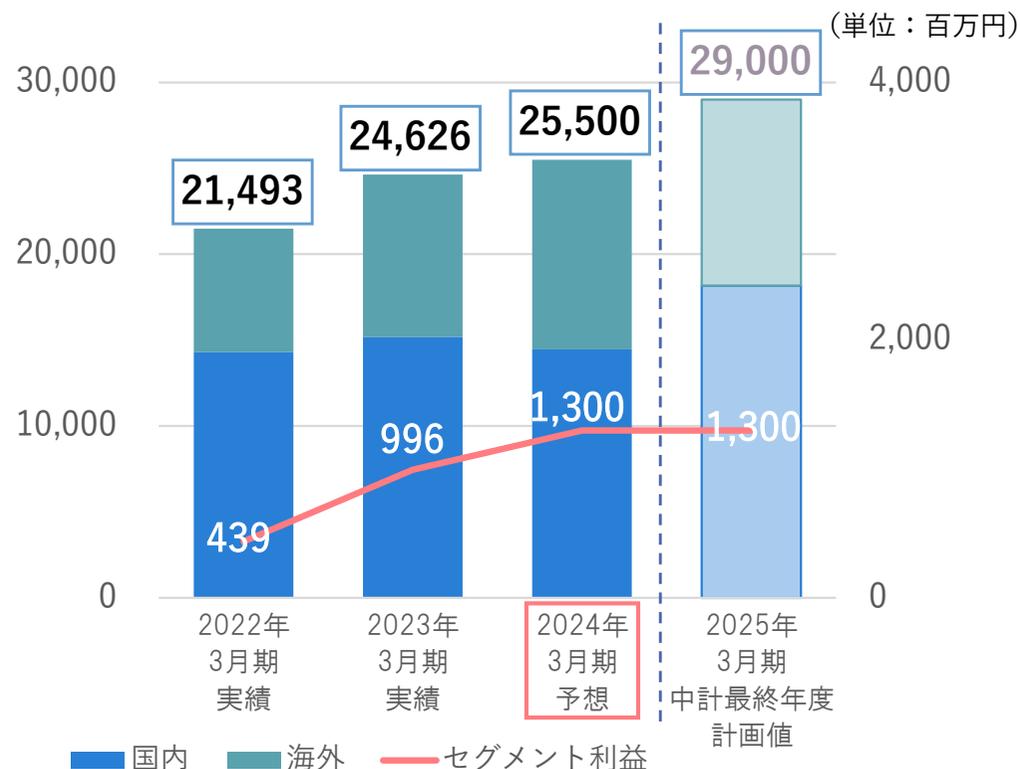
224百万円増収 (+1.9%)
45百万円減益 (△8.3%)



- 国内では、市場の減速により塩ビコンパウンドの販売が減少したものの、機能性フィルムの新規拡販が進み、増収
- 海外では、米国及び中国市場での販売が減少し、減収
- セグメント利益については、米国・中国市場での販売減少の影響により、減益

2024年3月期
通期予想

874百万円増収 (+3.5%)
304百万円増益 (+30.5%)

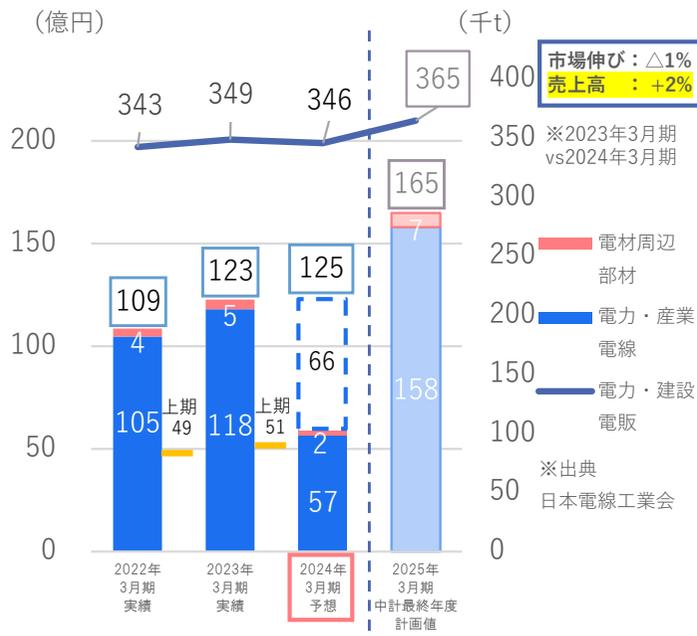


- 国内では、電力・産業電線、情報通信の市況が弱含み、減収
- 海外では、塩ビコンパウンドの販売増加により、増収
- セグメント利益は、海外での販売増加およびEV充電ケーブル用コンパウンドの輸出増加により、増益



重点分野① 電力・産業電線

国内の電力・建設電販市場向け電線銅量と当社コンパウンド売上高 (億円)



2024年3月期 上期実績

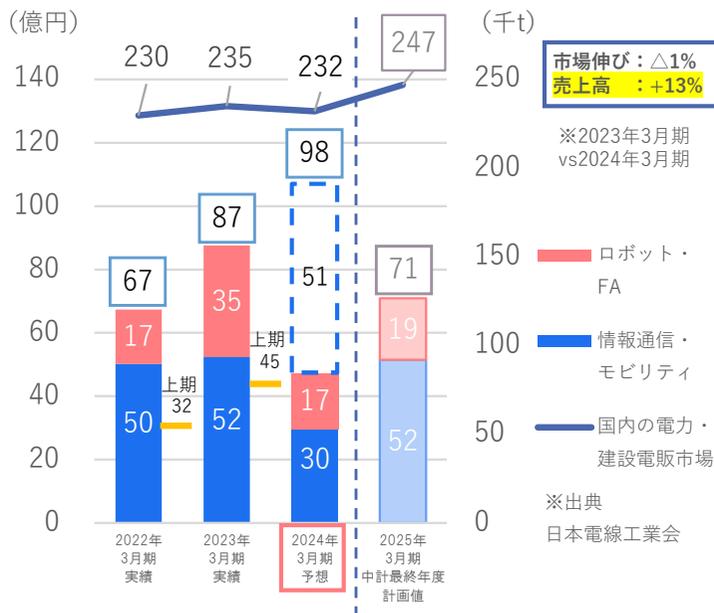
- 国内では、競合他社材の切替、顧客における内製品の当社コンパウンドへの切替を推進、販売拡大
- 海外では、インドネシア電力用電線の販売拡大
- 中国非日系機器電線メーカー向け、販売開始

2024年3月期 下期施策

- 国内は電力・建設電販分野向けの拡販
- 海外はASEAN (インドネシア/タイ) 電力・産業用電線の販売拡大

重点分野② 情報通信

国内の情報通信市場向け電線銅量と当社コンパウンド売上高 (億円)



2024年3月期 上期実績

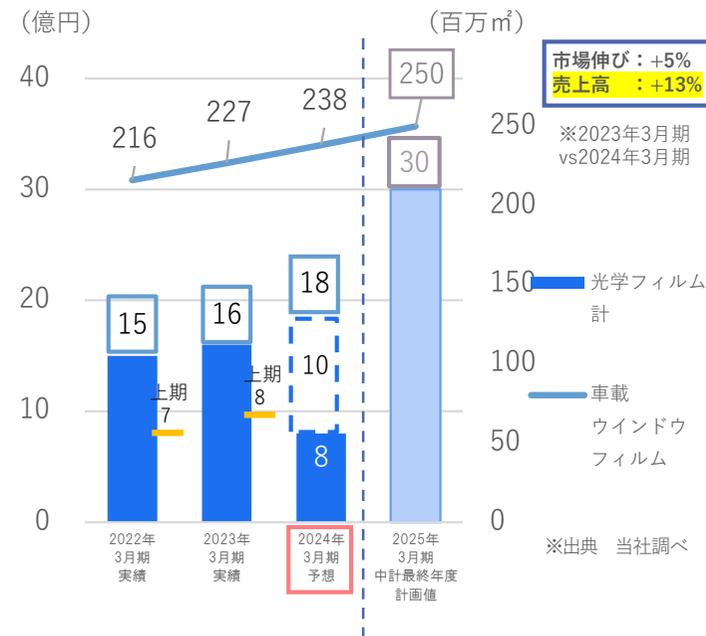
- EV充電ケーブル用材料の海外向け採用/量産開始
- EV車バッテリー用FFC市場調査
- 中国ロボットFAケーブル非日系向けの販売推進

2024年3月期 下期施策

- EV充電バッテリー用FFC材上市
- 中国ロボットFAケーブル非日系向け販売拡大

重点分野③ 光学フィルム

車載用ガラス代替フィルム需要と当社光学用フィルム売上高 (億円)



2024年3月期 上期実績

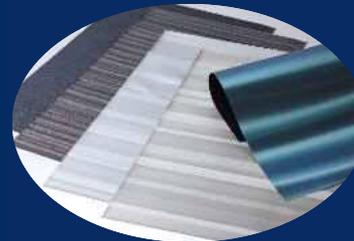
- 半導体用は採用が増え売上微増
- 車載用遮熱フィルムはインドネシア向け減少により売上横ばい

2024年3月期 下期施策

- 半導体用は中国・韓国向け開発案件の販売開始
- 車載用遮熱フィルムは、販売網・販売国の拡大

Building & Construction

ビルディング&コンストラクション



建装用フィルム



住宅・建築資材



Building & Construction

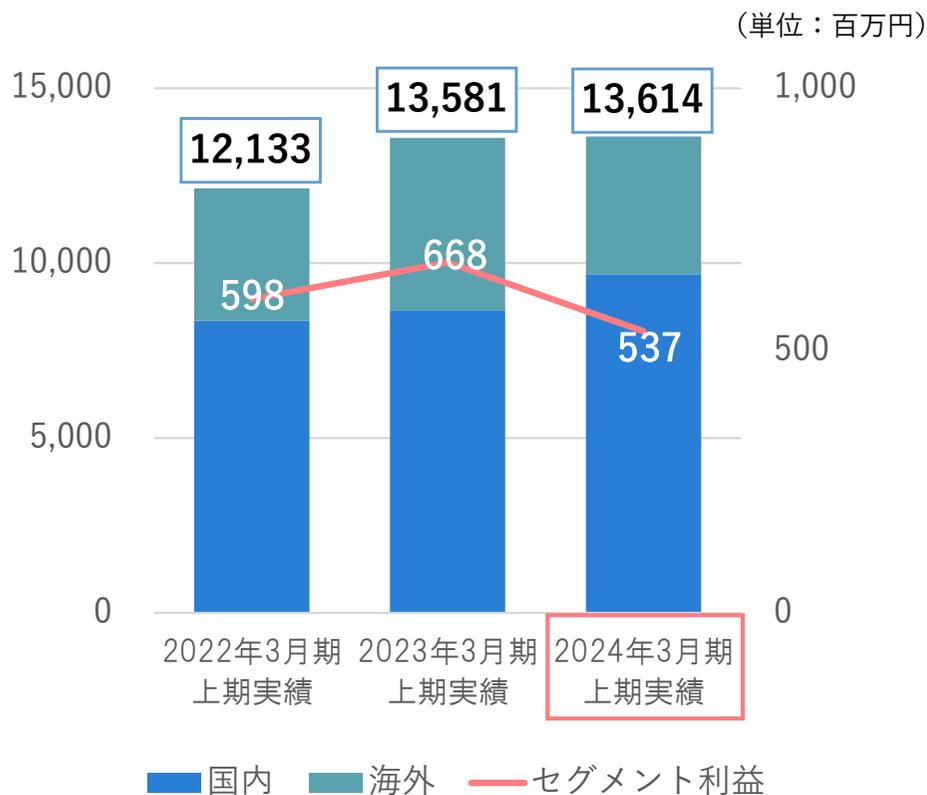


| 2.セグメント別概況



2024年3月期
上期実績

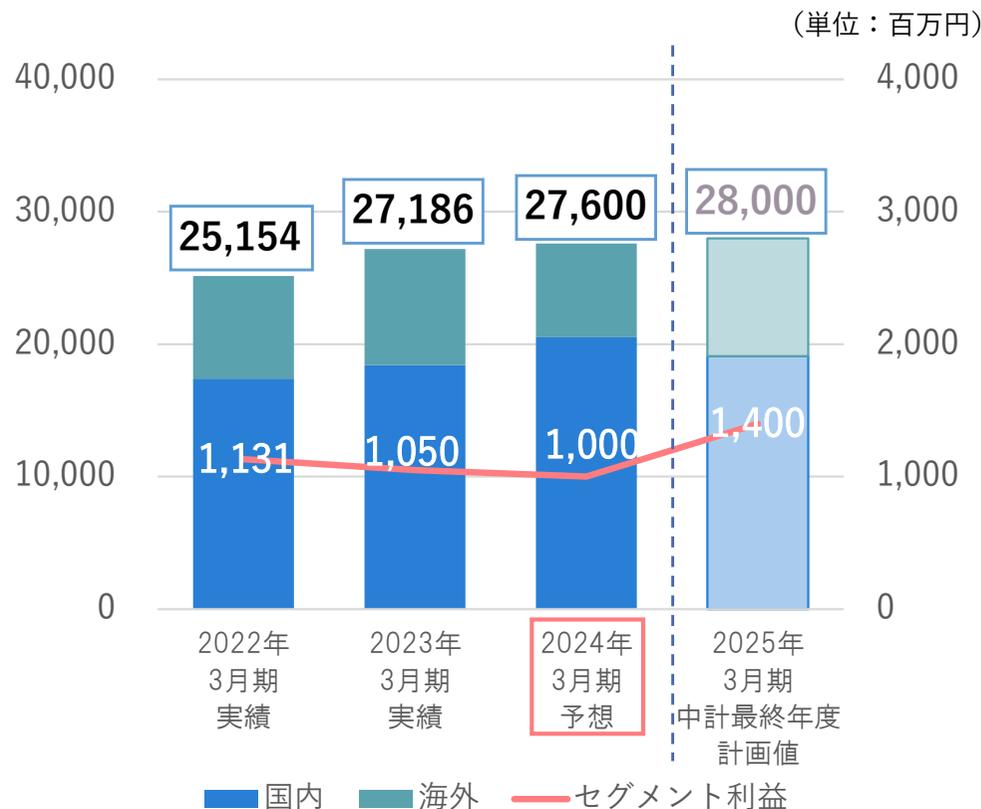
33百万円増収 (+0.2%)
131百万円減益 (△19.5%)



- 国内では、非住宅市場向けフィルム及び、住宅市場向け塩ビコンパウンドの販売が増加し、増収
- 海外では、米国、タイ国での住宅・建築市場向け塩ビコンパウンドの販売が減少し、減収
- セグメント利益は、米国でのコンパウンド販売減少により、減益

2024年3月期
通期予想

414百万円増収 (+1.5%)
50百万円減益 (△4.8%)



- 国内では、樹脂サッシ用コンパウンドの需要は落ち着くも、通期では販売が増加し、増収
- 海外では、米国の住宅市場の低迷もあり、減収
- セグメント利益は、海外での販売減少により、減益

Building & Construction

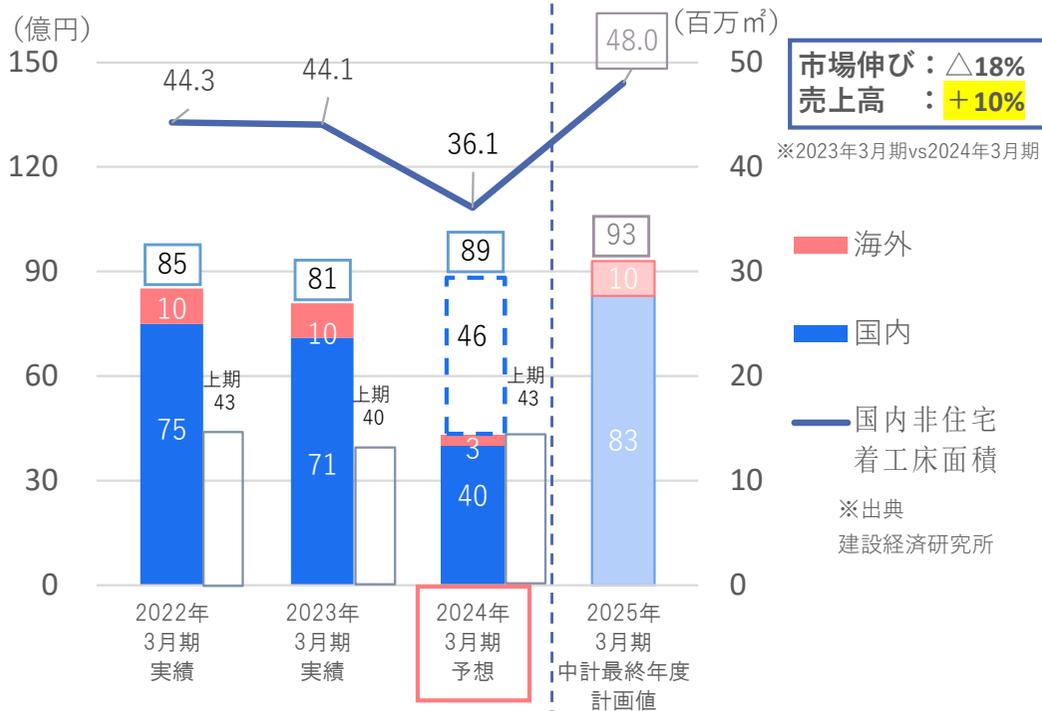


2.セグメント別概況



重点分野① 建装用フィルム

国内非住宅着工床面積と当社建装用フィルム売上高



2024年3月期 上期実績

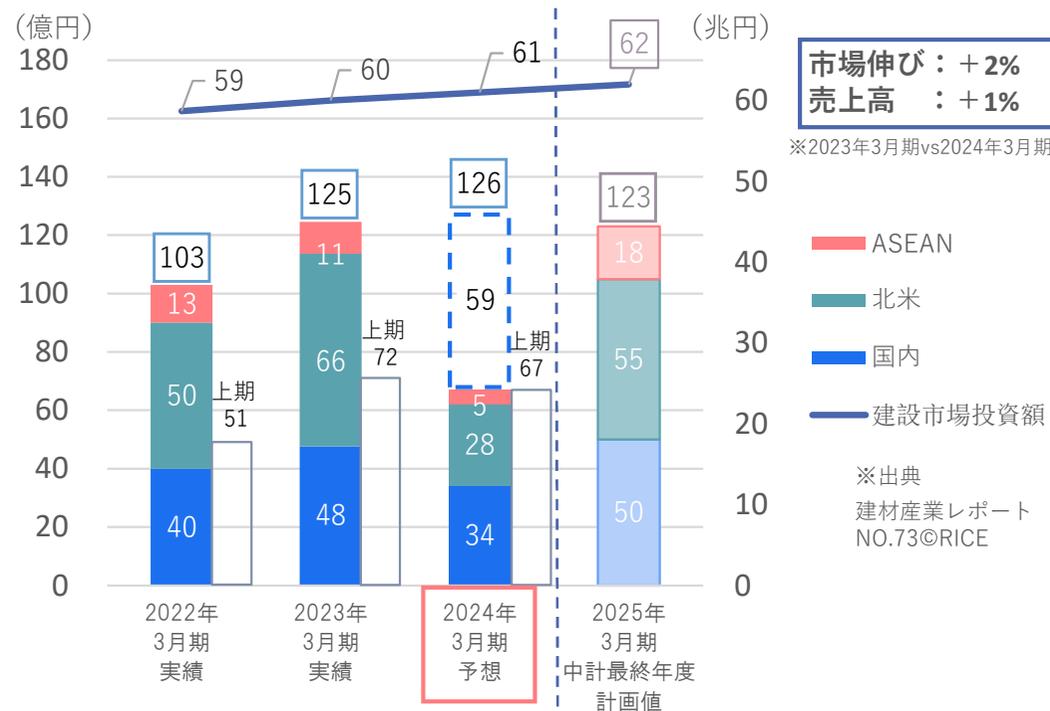
- 国内では、主要顧客の販売が好調に進み、増収
- 海外では、北米を中心に市況の悪化により、減収

2024年3月期 下期施策

- 国内は、新意匠製品を市場に投入し、採用拡大
- 海外は、印刷特性に優れたフィルムの海外展開を進める

重点分野② 住宅・建築資材

建設市場投資額と当社住宅・建築資材向けコンパウンド売上高



2024年3月期 上期実績

- 国内では、政府の「住宅省エネ2023キャンペーン」による樹脂サッシ用コンパウンドの拡販が進み、増収
- ASEANでは住宅・建築市場向け拡販が進まず、北米では住宅着工件数が減少しコンパウンドの拡販が進まず、減収

2024年3月期 下期施策

- 次年度でも予算化が決まった住宅省エネキャンペーンによる樹脂サッシ用コンパウンドの販売増加の取り込み
- ASEAN、北米での潜在需要の掘り起こしと塩ビコンパウンドの拡販



3.中長期的取り組み

1.決算概要

2.セグメント別概況

3.中長期的取り組み

中長期的にありたい姿

| 3.中長期的取り組み



➤ リケンテクノスグループのミッションに基づき長期ビジョンを策定

➤ 長期ビジョンの実現に向け2022年度より現中期経営計画を始動

リケンテクノスの
強み/ビジネスモデル

- グローバル展開する優良顧客
に対して、お客様の望むもの
を届ける力
- 高い技術力
 - 処方設計技術
 - 混練技術
 - カレンダー製膜技術

リケンテクノスを取り巻く
(中長期の)環境

- 脱プラの動き
- 環境意識の高まり
- デジタル化の潮流
- EV化の進展
- 国内市場の縮小
- アジアの成長

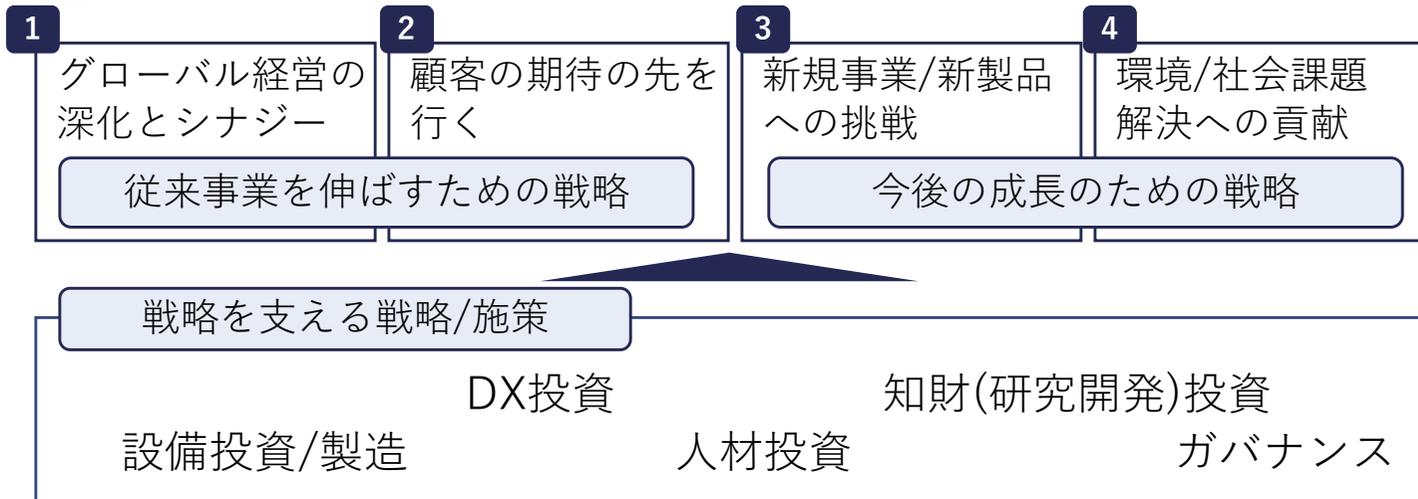
ミッション
(=存在意義)

私たちは科学の力で豊かさ、安心、快適を創り出す
チャレンジメーカーです。
独創的で卓越した樹脂素材の配合加工技術で、
企業と人と社会に新たな価値と喜びを提供し続けます。

長期ビジョン

すべての生活空間に快適さを提供する
リーディングカンパニーを目指して

中期経営計画の基本戦略



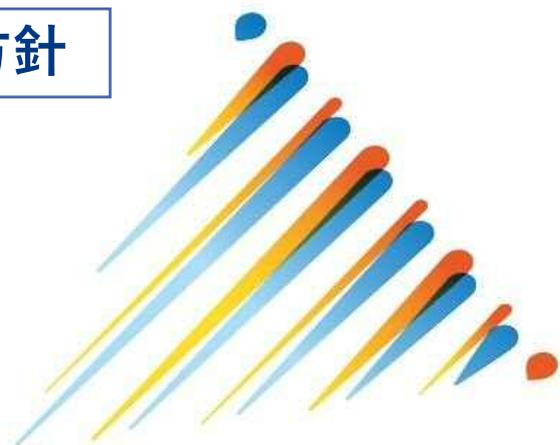
3カ年中期経営計画

| 3.中長期的取り組み



(単位：億円)

経営方針



**Challenge Now
for Change New 2024**
変革への挑戦

すべての生活空間に快適さを提供するリーディングカンパニーを目指して

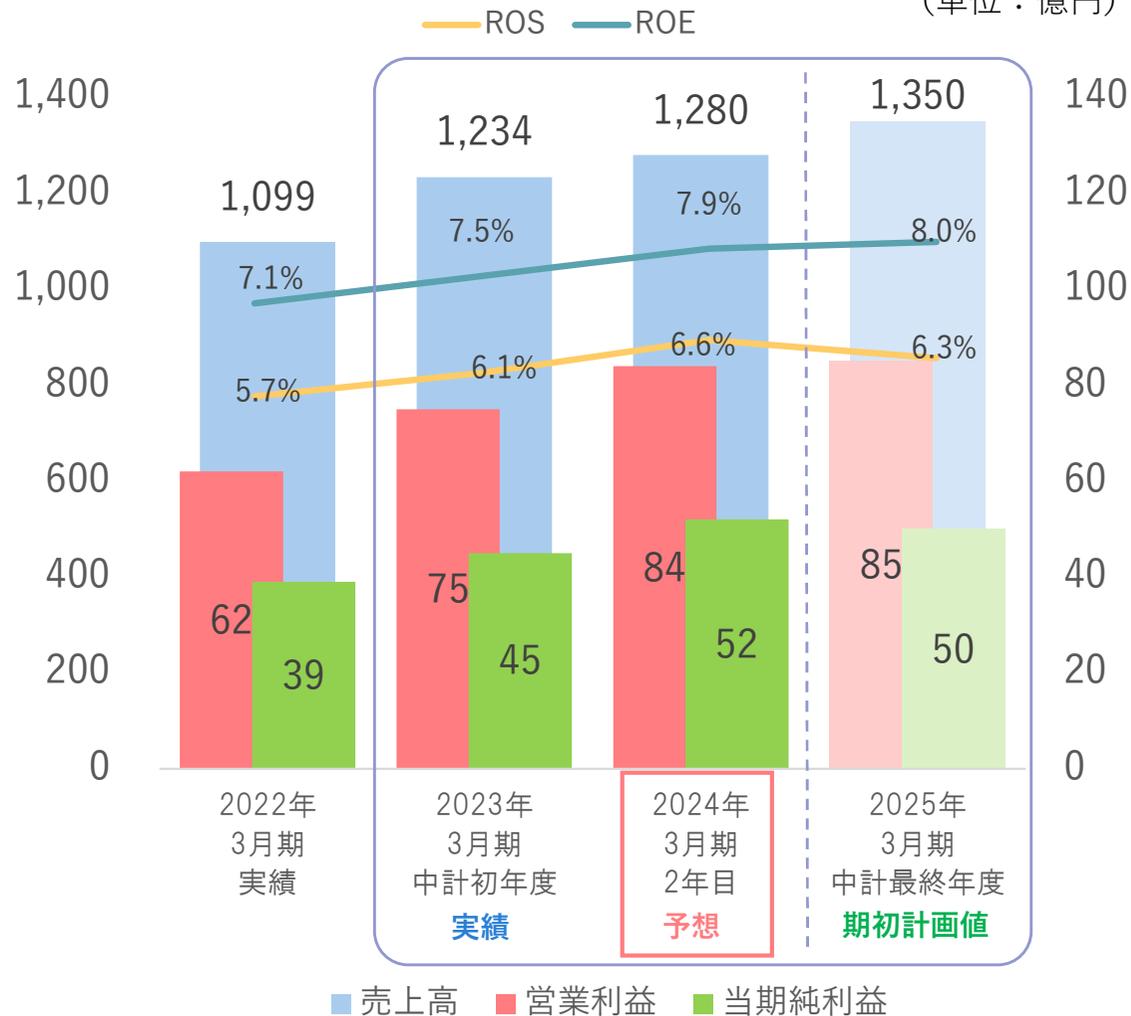
4つの戦略

グローバル経営の深化とシナジー

顧客の期待の先を行く

新規事業／新製品への挑戦

環境／社会課題解決への貢献



※中計計数策定の前提条件

2025年3月期計画 ナフサ価格：61千円/KL 為替：114円/USD

3カ年中期経営計画 (2024年3月期 上期実績) | 3.中長期的取り組み



戦略①グローバル経営の深化とシナジー

- ASEANの新規顧客・エリアへの拡販
- グローバル調達部主導による中国・ASEANにおける購買戦略の立案
- タイ拠点における新工場建設完了、新ライン稼働開始
- 国内・三重工場における新規エラストマーライン増設決定
- 米国・ASEANにおける地域統括役員の選任

戦略②顧客の期待の先を行く

- SFA/CRMの導入開始
- 研究開発部門におけるマテリアルズ・インフォマティクス人材育成および本格運用開始
- ゴム代替TPVコンパウンドの次世代生産パイロットライン完成
- コンパウンド開発とフィルム開発の融合による配合技術の強化

戦略③新規事業／新製品への挑戦

- 新規事業開発準備室によるテーマ探索の推進
- 産学連携、産産連携の推進
(現在4研究機関と協働中)
- 機能素材／機能フィルムの新規市場開拓
- IPランドスケープによる、新製品開発テーマの抽出と提言

戦略④環境／社会課題解決への貢献

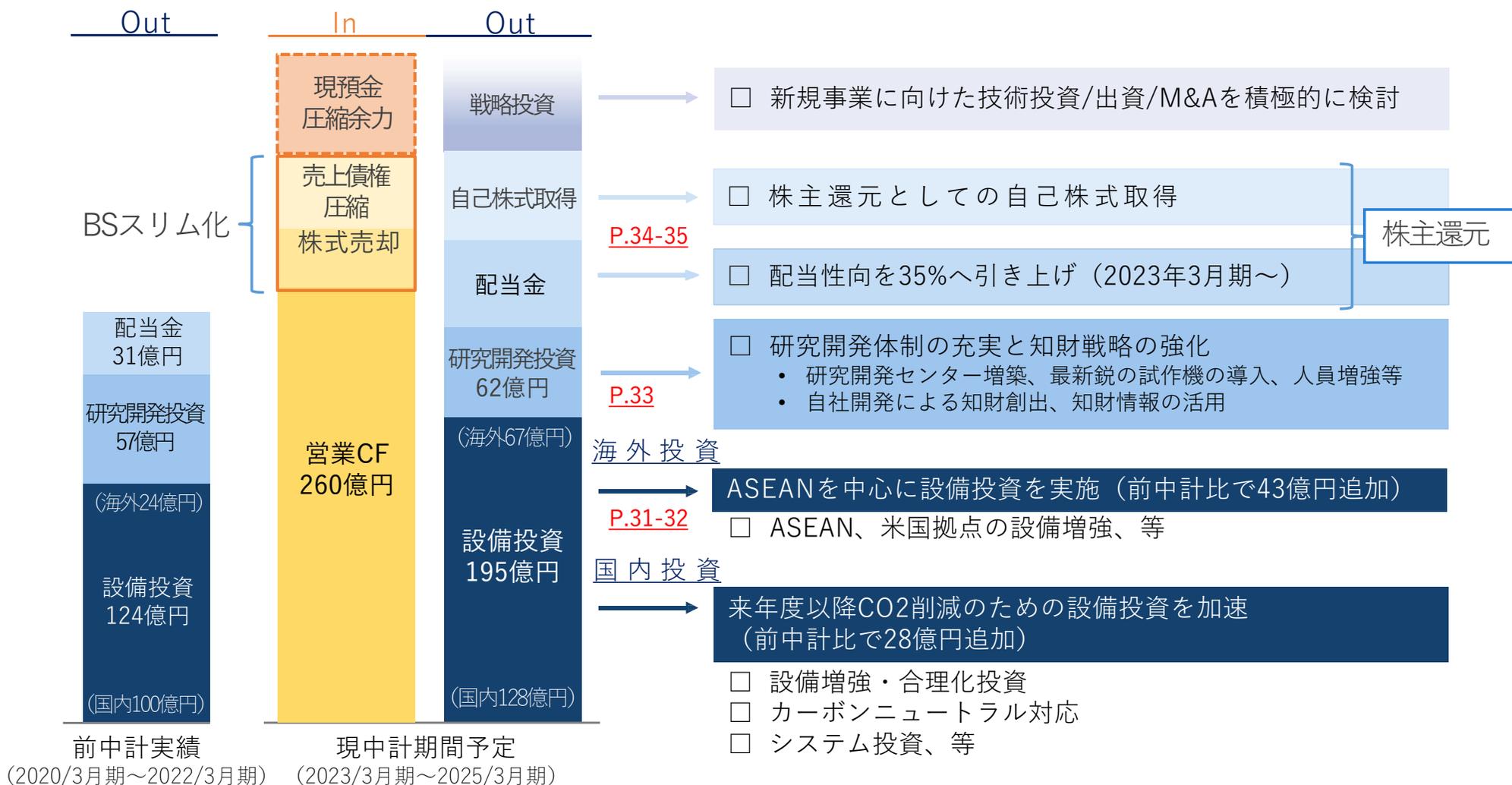
- マテリアリティ／KPIの特定
- 環境対応製品の開発・拡販
 - ▷RIKEBIO®シリーズの拡充
 - ▷リサイクル硬質塩ビ用の改質材の開発
- 女性活躍推進PJ発足
- リケンテクノスグループ人権方針の策定

中期経営計画における財務戦略

3. 中長期的取り組み



- 成長投資を軸に株主還元とバランスのとれたキャッシュアロケーションを実現
- ポートフォリオマネジメントを強化し、重点マーケットに経営資源を集中



投資（実績と予測）

| 3.中長期的取り組み



設備投資/システム投資

3カ年中期経営計画：195億円

(単位：億円)	主要案件	総額	海外比率		減価償却費	
			国内	海外		
2023年3月期 実績	ASEANにおける設備増設 国内設備増強 国内外合理化投資	47	33	14	30%	31
2024年3月期 予測	ASEAN・米国における設備増設 国内設備増設・増強 国内外カーボンニュートラル対応 国内外合理化投資 国内外システム投資	67	38	29	43%	35
2025年3月期 予測	ASEAN・米国における設備増設 国内設備増設・増強 国内外カーボンニュートラル対応 国内外合理化投資 国内外システム投資	83	55	28	34%	36
合計		197	126	71	36%	102



リケンテクノス（三重工場） 熱可塑性エラストマーコンパウンド 生産設備増設

既存建屋に新ライン増設決定

- ゴムと比較して様々な面でエコフレンドリーな素材であるエラストマーの生産能力を增強

《進捗》

- ✓ 2023年7月 生産設備の増設決議
- ✓ 2025年3Q ライン稼働予定
- ✓ 投資金額：約10億円



DX投資

- ✓ 研究開発データ管理システム導入
- ✓ 米子会社のグループ基幹システム刷新・統合
- ✓ 投資金額：約5億円



RIKEN VIETNAM CO., LTD. 塩ビコンパウンド生産設備増設

新工場建屋、新ライン、倉庫増設

《進捗》

- ✓ 2023年10月 建築許可取得
- ✓ 2024年11月 稼働開始予定
- ✓ 投資金額：約15億円



RIKEN ELASTOMERS CORPORATION 塩ビコンパウンド生産設備増設

既存建屋に新ライン増設

《進捗》

- ✓ 2024年12月 稼働開始予定
- ✓ 投資金額：約15億円



研究開発の実績

新製品開発・研究の取り組み

- **リサイクル硬質塩ビ用の改質材を開発**
 - ・当社が開発した改質材（コンパウンド）を添加することで、硬質塩ビのリサイクル材使用時の成形加工性を向上
- **バイオマスプラスチックRIKEBIO®シリーズの拡充**
 - ・TPE系RIKEBIO®にバイオマス接着グレードを開発
- **処方設計の効率化・高速化を目指したMIの活用**
 - ・MIを実践・指導できるレベルの研究者の育成のためのeラーニングを導入（2024年度目標社内MI人材：9名）
 - ・コンパウンド、フィルムの処方設計開発で実際に運用



オープンイノベーションの取り組みの例

- **大学との共同研究**
 - ・東京大学：塩ビフィルムを用いたグラフェン等の二次元物質の積層方法の共同研究を実施
 - ・早稲田大学：塩素含有プラスチックを用いた廃金属化合物からの有用金属回収技術の共同研究を開始

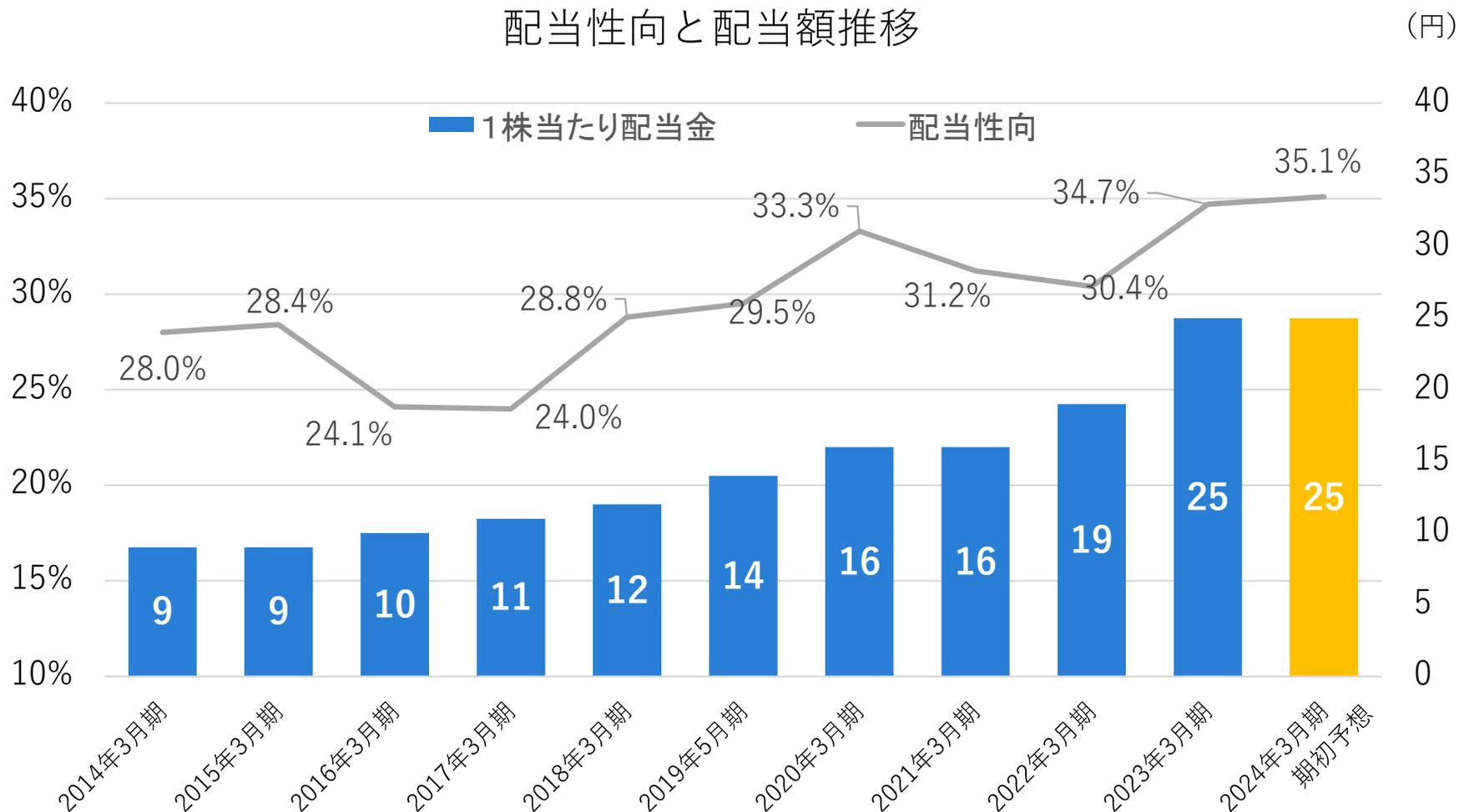
➤ 経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行し、資本効率を向上させ株主還元に資するため、2023年10月30日の取締役会にて自己株式取得に係る事項を決議

➤ 取得に係る事項の内容

- | | |
|--|------------------------|
| (1) 取得対象株式の種類 | 普通株式 |
| (2) 取得しうる株式の総数
(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合) | 850万株(上限)
13.4% |
| (3) 株式の取得価額の総額 | 70億円(上限) |
| (4) 取得期間 | 2023年11月10日~2024年1月31日 |
| (5) 取得資金 | 自己資金を充当 |

取得株式は全株消却予定

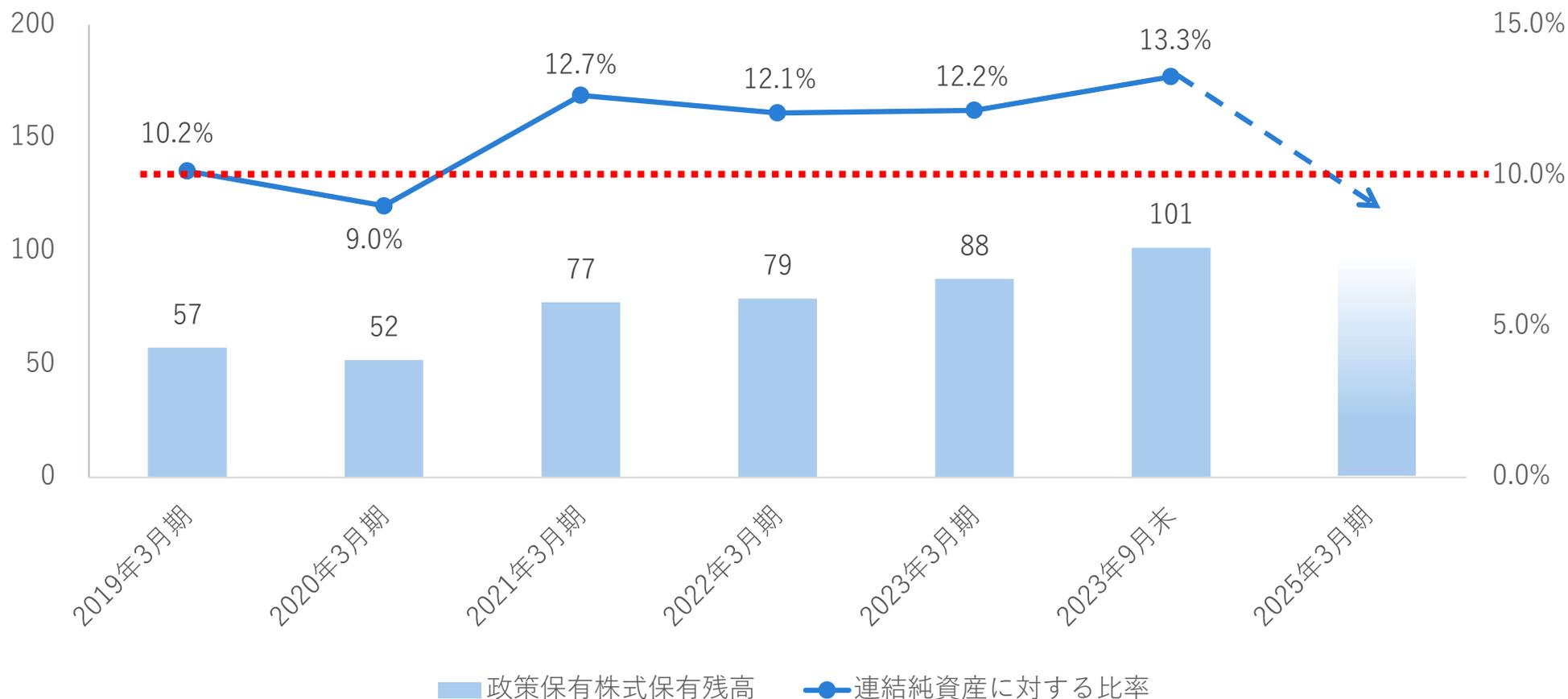
➤ 2023年3月期に引き上げた連結配当性向35%程度は堅持



- 保有残高を連結純資産の10%未満にする方針を決定
- 縮減により創出したキャッシュは成長投資に活用

政策保有株式の保有状況の推移

(金額：億円)



1	<p>IR/SRの拡充 株主・投資家との関係強化 (能動的コミュニケーションの加速)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ SR面談の実施 <ul style="list-style-type: none"> • SR面談先へ能動的な個別IRも実施 ■ 株主/投資家との対話手法の拡充 <ul style="list-style-type: none"> • Blue Challenge Report (統合報告書) を発刊 • 有価証券報告書、事業報告等に非財務情報を記載 • 英文開示を含めた財務/非財務の情報発信の拡充
2	<p>人材戦略の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■サクセッションプランを軸とした人材戦略実践 <ul style="list-style-type: none"> • 成長性の高い人材の確保/育成/再配置 • 女性活躍推進のためのプロジェクトを始動 ■ 人的資本への積極投資 <ul style="list-style-type: none"> • 従業員向け株式報酬制度の導入検討
3	<p>役員報酬制度の見直し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 業績連動指標の内容やウェイトの見直し検討 ■ 中長期業績連動報酬導入/株式報酬の更なる活用検討
4	<p>サステナビリティ課題への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ リケンテクノスグループ人権方針の策定 ■ 従業員のサステナビリティ意識向上のための各種社内研修実施

株主・投資家との対話に関する取り組み | 3.中長期的取り組み



- これまで発行していたサステナビリティレポートを「統合報告書」として内容を刷新
- 持続的な企業価値向上に向けた当社グループの価値創造の全体像や取り組みについて紹介
- 「経営戦略」や「サステナビリティ」に関する財務・非財務情報を充実化

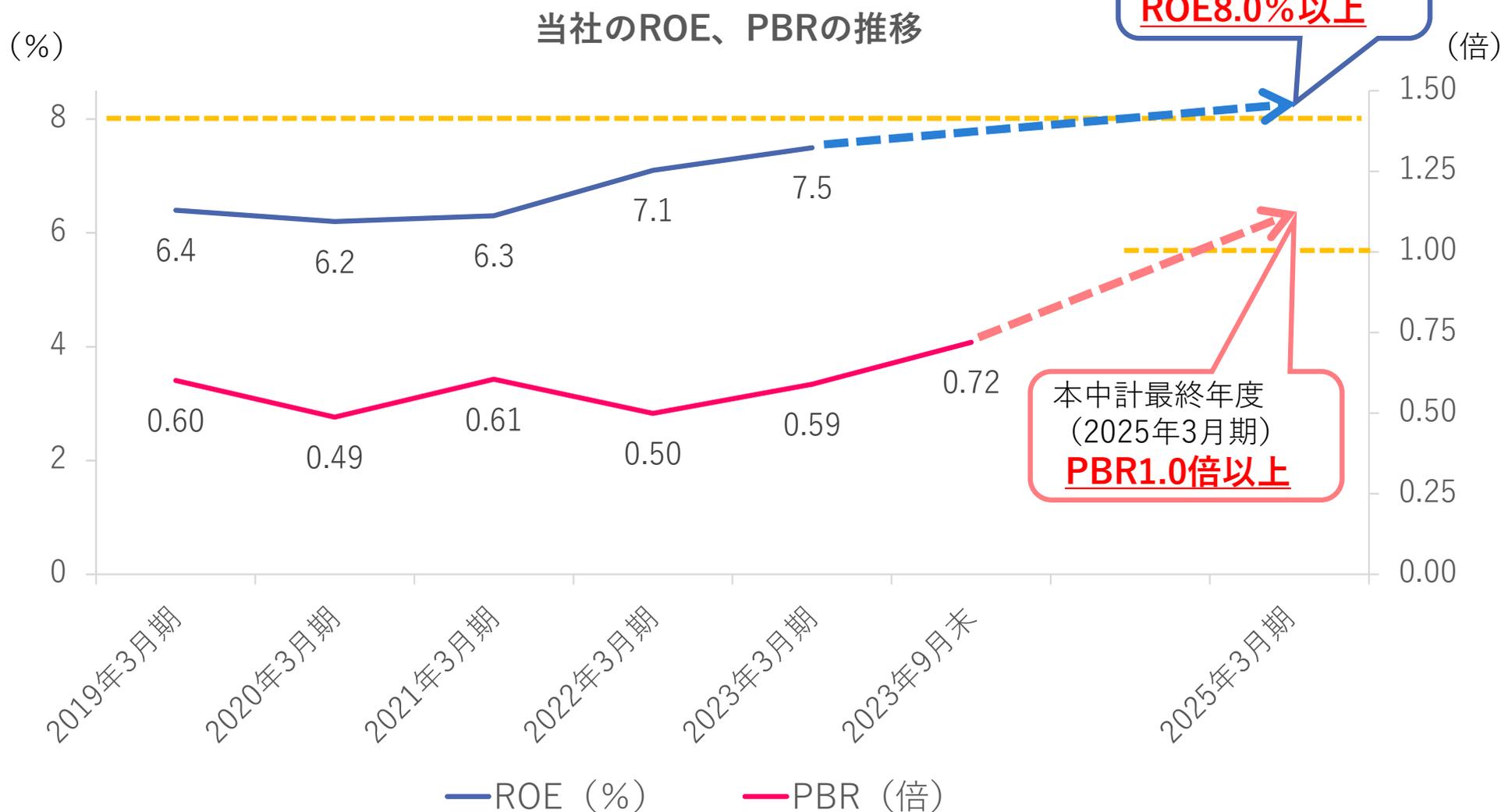


新たに掲載したコンテンツ

- 財務情報
- CEOメッセージ
- 財務担当役員メッセージ
- 価値創造プロセス/当社の強み
- マテリアリティ・KPI
- 社外取締役メッセージ など

統合報告書URL：<https://www.rikentechnos.co.jp/csr/report/>

➤各戦略を確実に実行することで、2025年3月期において
ROE8.0%、PBR1.0倍以上の達成を目指す



免責事項

本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている当社および当社グループ以外の企業などにかかわる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

お問い合わせ先

webmaster@rikentechnos.co.jp

経営企画部/経理部



会社概要



社名	リケンテクノス株式会社
設立年月日	1951年（昭和26年）3月30日
資本金	85億14百万円
代表者	代表取締役 社長執行役員 常盤和明
従業員数	連結1,914名 単体797名（2023年9月30日現在）
本社所在地	〒101-8336 東京都千代田区神田淡路町 二丁目101番地 ワテラスタワー



経営理念（リケンテクノス ウェイ）

創業当時から引き継いでいる「ベンチャー精神」こそ、リケンテクノスの強みであり、「リケンテクノスらしさ」です。
この「リケンテクノスらしさ」をもとに経営理念である「リケンテクノス ウェイ」は策定されました。
ミッションにある「チャレンジメーカー」という言葉は造語ですが、
製造業という意味でのメーカーの他に、挑戦して何かを創り出す人という意味もこめられています。
未来への飛躍のために、これからも挑戦し続けていきます。



ミッション “使命・存在価値”

私たちは科学の力で

豊かさ、安心、快適を創り出すチャレンジメーカーです。

独創的で卓越した、樹脂素材の配合加工技術で、

企業と人と社会に新たな価値と喜びを提供し続けます。

コア・バリュー “基本的価値観”

信頼しあい貢献しあう 新しい価値を生み出す

常に挑戦し成長する 仕事を楽しみワクワクする

共に解決し共に喜ぶ

基本行動 “具体的な行動指針”

失敗を恐れず前向きにやってみる 主役になって仕事を楽しむ

信頼しあう仲間となって助け合う 大事に聴いて本気で話す

笑顔で出てきて笑顔で帰る 顧客の期待の先に行く

新しいことマニアになる プロなんだから自分を磨く

決めたところまで決めた時期まで

事業領域



合成樹脂加工に係わる総合的な技術をベースに「コンパウンド」、「フィルム」、「食品包材」の3つの主要製品を柱に各用途に応じた加工で幅広い産業に製品を供給、国内外で事業を展開しています。

セグメント

主要製品	概要	トランス ポーション	デイリーライフ & ヘルスケア	エレクトロニクス	ビルディング & コンストラクション
コンパウンド	ベースの樹脂に添加剤を何種類か混ぜ合わせ、新しい性質を持たせた複合材料で、主に押出成形や射出成形に使われる素材。塩化ビニル樹脂をはじめ、熱可塑性エラストマー、機能性コンパウンドを開発、製造、販売。	 			
フィルム	配合した樹脂の特性に適した製法で高品質フィルム製膜を実施。また、複数のフィルムを貼り合わせたり、表面に塗料をコートすることにより、意匠性や機能性を付与したフィルム製品を開発、製造、販売。				
食品包材	日本で初めて塩化ビニル樹脂のラップを開発したパイオニアとして、家庭用から業務用まで、食品包装用ラップの品質・性能を追求するとともに、食品や自動包装機などに適したラップを開発、製造、販売。				

事業を通じた環境・社会への貢献



➤ 従来事業の塩化ビニル、エラストマーにおいても「省エネルギー」や「省資源」、「リサイクル」などのテーマをもっており、これら製品の拡販により環境保護に対する貢献につながります。

樹脂	特徴	当社製品を使用した環境貢献の例	
塩化ビニル	<p>■ 塩化ビニルの約60%は天然素材の「塩」に由来</p> <ul style="list-style-type: none"> 高耐久で長期使用できるため省資源 資源エネルギー消費量では、石油由来の炭化水素を主とする他の樹脂（ポリエチレンやポリプロピレン）の半分以下*で低負荷 <p>※ポリエチレンやポリプロピレン: 45.6~46.5MJ/kg 塩ビ: 21.3MJ/kg</p>	<p>塩ビ樹脂製内窓用サッシ ①省エネルギー ②リサイクル</p>	<p>産業電線 ①耐久資材 ②化学物質管理</p>
		 <p>CO₂削減効果 アルミサッシ比較 約40%**</p> <p>経産省・環境省の推進するZEH政策の一つとして既存住宅窓の高断熱化のための樹脂サッシ導入が進んでおり、旺盛な需要は続く見込みです。</p>	 <p>耐久性に優れる塩ビは、長期使用が前提の産業電線等に使用されています。当社では各国の法規制に適合する処方設計を行い、化学物質管理に対応しています。</p>
エラストマー	<p>■ ゴムと比較して様々な面でエコフレンドリーな素材</p> <ul style="list-style-type: none"> 成型サイクル時間を短縮でき、製造時のCO₂発生量の削減に貢献 低比重な素材のため、自動車の車体軽量化・燃費向上に貢献 リサイクル利用が可能 	<p>耐油性ゴムと同等の機能を有する “高耐油 TPV ACTYMER®K”</p>	<p>優れたゴム特性で加硫ゴム代替となるTPV “ACTYMER®G”</p>
		<p>自動車の軽量化による燃費向上を目的とした素材転換、ゴム代替のトレンドは継続見込み</p>	

*出典：塩ビ工業・環境協会HPより作成 **出典：樹脂サッシ工業会

グローバルネットワーク



- 製造会社
- 販売会社

- リケンテクノス株式会社
- 国内子会社

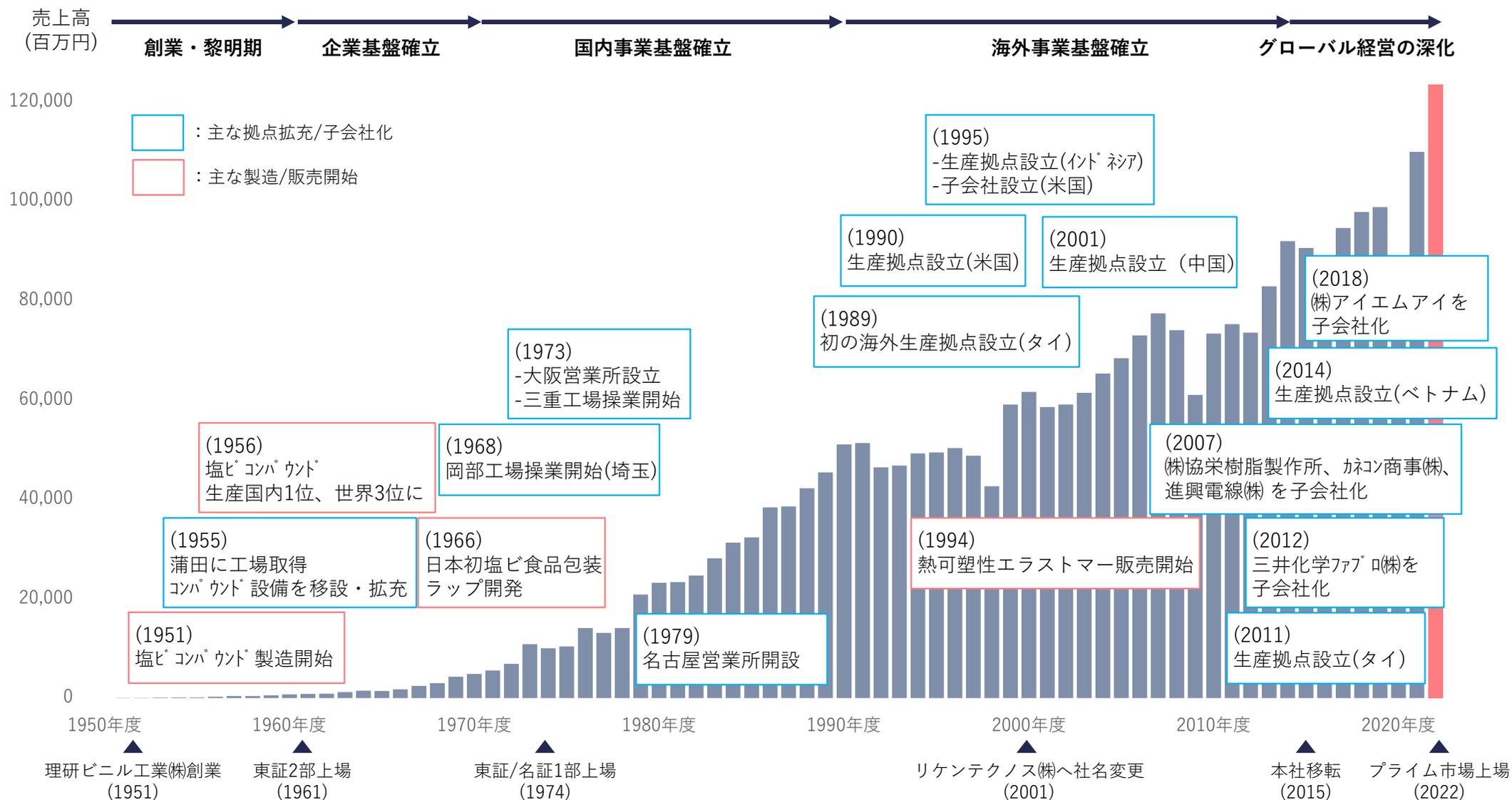
- リケンケーブルテクノロジー株式会社
- リケンケミカルプロダクツ株式会社
- 株式会社協栄樹脂製作所
- 株式会社アイエムアイ



価値創造のあゆみ



➤ 1951年の創業以来、国内・海外拠点を拡充させ、多くの製品を世に出し続けて参りました



*1999年度より連結決算開始に伴い連結売上高を記載

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応



《財務戦略》

- 株主還元（自己株式取得・配当）の強化
- 政策保有株式の縮減

《成長戦略》

- 3カ年中期経営計画の完遂
「Challenge Now for Change New 2024 変革への挑戦」
- 成長投資の拡充

《非財務戦略》

- IR/SRの拡充
- 人材戦略の強化
- 役員報酬制度の見直し

3カ年中期経営計画と連動した取組みにより企業価値向上を目指す

10/30適時開示済



2023年10月30日

各位

会社名 リケンテクノス株式会社
代表取締役 社長執行役員 清瀬 和明
(コード番号: 4220 東証プライム)
代表取締役 専務執行役員 管理本部長
関谷 幸夫 入江 淳二
(TEL: 03-5297-1656)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、本日開催の取締役会において、「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」に関する東京証券取引所の要請を踏まえ、現状分析・評価、改善に向けた方針・目標、具体的な取組みについて決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 現状分析・評価

当社グループは、長期ビジョンとして「すべての生活空間に快適さを提供するリーディングカンパニーを目指して」を掲げ、現行3カ年中期経営計画（2023年3月期～2025年3月期）「Challenge Now for Change New 2024 変革への挑戦」で掲げる経営目標の実現に向けて具体的な取組みを進めています。その初年度である2023年3月期は、連結の売上高・各段階利益ともに過去最高を達成し、2年目となる2024年3月期第2四半期においても想定を上回る成果を上げております。

こうした中、当社のROE（自己資本純利益率）は着実に改善してきておりますが、ROE（株価純資産倍率）につきましては、1株当たり純資産の増加に対して株価の上昇が鈍く、1割を下回る水準で推移しております。この要因といたしましては、直近の2023年3月期においてROEは7.5%まで向上したものの、自己資本の積み上がりもあり株主資本コストを上回る水準まで達していないこと、当社の成長性について株主・投資家の皆様の十分な評価を得られていないことなどが影響していると分析しております。

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
ROE	6.4%	6.2%	6.9%	7.1%	7.5%
ROE	0.60倍	0.49倍	0.51倍	0.50倍	0.39倍
株価	451円	385円	516円	437円	589円
1株当たり純資産	753.31円	788.77円	852.51円	914.83円	994.00円

※株価は各期3月末日終値